

令和 7 年度

事業実績報告書

学校法人 佐保会学園

奈良佐保短期大学

附属生駒幼稚園

認定こども園附属河内長野幼稚園

附属倉敷幼稚園

令和 7 年度に係る事業の実績報告

奈良市鹿野園町 806

学校法人 佐保会学園

I 法人の概要等	3
1. 法人の目的	3
2. 既設校の内容	3
3. 法人等の沿革	3
4. 歴代理事長、学長及び園長	5
(1) 理事長	5
(2) 学長	5
(3) 園長	6
5. 奈良佐保短期大学名誉教授	6
6. 運営・組織機構（主たる業務・分掌を含む）	7 (43)
7. 役員	7
8. 理事会、評議員会の開催状況	7
(1) 理事会	7
(令和 6 年度)	7
(令和 7 年度)	7
(2) 評議員会	8
(令和 6 年度)	9
(令和 7 年度)	9
9. 役職員	9
(1) 法人本部	9
(2) 奈良佐保短期大学	10
(3) 附属幼稚園	10
10. 職員数	10
・教員等の現員	10
11. 附属図書館	11
(1) 図書及び雑誌	12
(2) サービス状況	12
12. 外部資金	12
科学研究費補助金	12
II 財務の概要	12
1. 監事の監査状況と監査内容	12
2. 公認会計士の監査状況	12
3. 貸借対照表の要約	13
4. 財産目録の要約	13
5. 資金収支・事業活動収支の要約	14
(1) 資金収支決算	14
(2) 事業活動収支決算	15
(3) 教育研究経費比率	16
6. 土地建物	16

Ⅲ 事業の概要	17
1・奈良佐保短期大学	17
2・附属生駒幼稚園	32
3・認定こども園附属河内長野幼稚園	38
4・附属倉敷幼稚園	40

学校法人 佐保会学園 令和7年度に係る事業の実績報告

I 法人の概要等

1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、教養高く、かつ、専門的、職業的能力を有する優れた人材を育成することを目的とする。

2. 既設校の内容

法人の名称：学校法人佐保会学園		事務所の所在地：奈良市鹿野園町806		
学校名	学科・課程名（修業年限）	開設年度	入学定員 (人)	収容定員 (人)
奈良佐保短期大学	生活未来科（2年） 生活福祉コース 食物栄養コース ビジネスキャリアコース	平21	0	80
	地域こども学科（2年） こども教育コース こども保育コース	平22	0	70
	日本語教育別科（1年）	平22	0	20
附属生駒幼稚園	5歳児（1年保育） 4歳児（2年保育） 3歳児（3年保育）	昭52		220
認定こども園		昭49		120
附属河内長野幼稚園		昭51		115
附属倉敷幼稚園				

所在地 奈良佐保短期大学 奈良市鹿野園町 806
 附属生駒幼稚園 生駒市鹿ノ台南2-12
 認定こども園
 附属河内長野幼稚園 河内長野市大矢船中町10-1
 附属倉敷幼稚園 倉敷市徳芳869-116

3. 法人等の沿革

昭和6年4月1日 奈良女子高等師範学校（現・奈良女子大学）同窓会佐保会によって各種学校佐保女学院（奈良佐保短期大学の前身）が開設される
 昭和40年1月25日 学校法人佐保会学園設立の認可を受ける
 昭和40年1月25日 佐保女学院短期大学設置の認可を受ける
 昭和40年4月1日 同短期大学開設（家政科入学定員100名）する
 昭和40年12月3日 1号館 竣工
 昭和42年3月21日 2号館 竣工
 昭和42年3月23日 栄養士養成課程（入学定員50名）設置の認可を受ける
 昭和42年4月1日 家政科を家政専攻（入学定員100名）と食物栄養専攻（入学定員50名）に変更する
 昭和42年4月1日 栄養士養成課程を開設する
 昭和43年7月29日 佐保女学院短期大学を奈良佐保女学院短期大学と校名変更の認可を受ける

昭和４８年	２月	４日	初等教育学科の設置の認可を受ける（入学定員５０名）
昭和４８年	２月	４日	家政科を家政学科と学科名の変更の認可を受ける
昭和４８年	２月	４日	家政学科の入学定員を家政学専攻５０名、食物栄養専攻５０名計１００名に変更の認可を受ける
昭和４８年	３月	３１日	３号館、４号館 竣工
昭和４８年	４月	１日	初等教育学科（入学定員５０名）を開設する
昭和４９年	３月	８日	学校法人佐保学園河内長野佐保幼稚園設置認可を受ける（大阪府）
昭和４９年	４月	１日	同幼稚園開設（入園定員１２０名）
昭和５１年	２月	１２日	初等教育学科の入学定員を１００名に増員の認可を受ける
昭和５１年	２月	１２日	家政学科の入学定員を１００名に増員の認可を受ける
昭和５１年	３月	２５日	５号館 竣工
昭和５１年	１２月	１１日	学校法人佐保学園倉敷佐保幼稚園設置認可を受ける（岡山県）
昭和５１年	４月	１日	同幼稚園開設（入園定員８０名）
昭和５２年	４月	１２日	学校法人佐保学園生駒佐保幼稚園設置認可を受ける（奈良県）
昭和５２年	９月	１日	同幼稚園開設（入園定員２００名）
昭和５４年	４月	３０日	体育館 竣工
昭和５８年	３月	３１日	奈良県認可の学校法人佐保学園に河内長野佐保幼稚園及び倉敷佐保幼稚園を吸収合併の認可を受ける
昭和６０年	１２月	２５日	家政学科家政専攻の入学定員を１００名に、初等教育学科の入学定員を１５０名に増加認可を受ける
昭和６０年	１２月	２５日	家政学科家政専攻の入学定員を１００名の臨時増員の認可を受ける（期間 昭和６１年４月１日～平成１２年３月３１日）
昭和６３年	１月	２９日	家政学科を生活科学科と学科名を変更する 家政専攻を生活科学専攻と専攻名の変更の認可を受ける
平成 ２年	３月	３１日	６号館 竣工
平成 ４年	８月	３１日	学校法人佐保会学園が学校法人佐保学園を合併する認可を受ける
平成 ５年	４月	１日	生駒佐保幼稚園、河内長野佐保幼稚園及び倉敷佐保幼稚園をそれぞれ奈良佐保女学院短期大学附属生駒幼稚園、同附属河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園とする
平成１１年	４月	１日	生活科学科生活科学専攻を分離し、生活福祉専攻（介護福祉養成施設等指定）を設置する生活科学専攻の恒常的入学定員を４０名減じ、生活福祉専攻の入学定員を６０名とする
平成１２年	３月	３１日	生活科学科生活科学専攻の入学定員１００名の臨時増員を廃止減員する
平成１３年	４月	１日	奈良佐保女学院短期大学を奈良佐保短期大学に、奈良佐保女学院短期大学附属生駒幼稚園、同河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園を奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園、同河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園に名称変更を行うとともに、奈良佐保短期大学にあっては受入学生を男女共学とする
平成１３年	４月	１日	初等教育学科を幼児教育科と学科名を変更する
平成１４年	４月	１日	生活科学科生活科学専攻を廃止する
平成１５年	４月	１日	専攻科（福祉専攻：定員３０名）を設置する
平成１６年	１１月	８日	自己点検評価室を設置する
平成１７年	４月	１日	情報メディアセンターを設置する
平成１９年	９月	２８日	生活科学科生活福祉専攻入学定員を１０名減じ５０名とし、幼児教育科入学定員を１３０名に増加認可（平成２０年度～）を受ける
平成１９年	１０月	１７日	附属倉敷幼稚園の入園定員を２５名増し１０５名に増加認可（平成２０年度～）を受ける

平成20年	4月	1日	生涯学習教育センターを設置する
平成21年	4月	1日	生活科学科を生活未来科と学科名を変更する 生活未来科は専攻課程を廃止し、入学定員を100名とする。
平成22年	3月10日		中華人民共和国西安外国語大学高職部との連携・協力に関する包括協定書締結
平成22年	4月	1日	幼児教育科を地域こども学科と学科名を変更し、入学定員を100名とする 日本語教育別科（定員20名）を設置する
平成23年	3月31日		7号館 竣工
平成23年	4月	1日	キャリア支援センターを設置する
平成23年	9月		中華人民共和国大連大学との交流に関する協定書締結
平成24年	4月	1日	地域共生センターを設置する（生涯学習教育センターを廃止する）
平成27年	4月	1日	地域・国際連携センターを設置する（地域共生センターを廃止する。） 附属倉敷幼稚園の入園定員を10名増し115名に増加認可を受ける 附属河内長野幼稚園を認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園（利用定員60名） としての認可を受ける
平成28年	3月31日		専攻科（福祉専攻：定員30名）を廃止する
令和2年	4月	1日	生活未来科入学定員を20名減じ80名とする
令和6年	4月	1日	地域こども学科入学定員を30名減じ70名とする
令和6年	4月	1日	認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園の利用定員を15名減じ45名に変更 する認可を受ける
令和7年	4月	1日	奈良佐保短期大学生活未来科、地域こども学科、日本語別科の学生募集を停止する
令和8年	3月31日		奈良佐保短期大学を閉学する

4. 歴代理事長、学長及び園長

(1) 理事長

	長谷川 千 鶴	昭和40年	4月	1日～平成13年	3月31日
	梶 田 武 俊	平成13年	4月	1日～平成17年	7月31日
	丹 羽 雅 子	平成17年	8月	1日～平成18年11月11日	
(代行)	生 駒 節 子	平成18年11月12日～平成18年12月16日			
	奥 村 晶 子	平成18年12月17日～平成25年	7月31日		
(代行)	大 石 正	平成19年10月	7日～平成19年10月22日		
(代行)	馬 越 かよ子	平成25年	8月	1日～平成25年	8月10日
	榎 和 子	平成25年	8月11日～平成29年	7月31日	
	馬 越 かよ子	平成29年	8月	1日～令和6年	7月31日
(代行)	倉 田 清	令和6年	8月	1日～令和6年11月	8日
	倉 田 清	令和6年11月	8日～（現在に至る）		

(2) 学長

（昭和40年4月から平成13年3月まで奈良佐保女学院短期大学）

	波多腰 ヤ ス	昭和40年	4月	1日～昭和47年	6月8日
(代行)	近 末 貢	昭和47年	6月	8日～昭和48年	7月31日
	宮 本 富 美	昭和48年	8月	1日～平成6年	6月30日
	菅 沼 美 子	平成6年	7月	1日～平成12年	3月31日
(代行)	梶 田 武 俊	平成11年10月	1日～平成12年	3月31日	
	梶 田 武 俊	平成12年	4月	1日～平成14年	3月31日

(平成13年4月から奈良佐保短期大学)

梶 田 武 俊	平成14年	4月	1日～平成18年	3月31日
大 石 正	平成18年	4月	1日～平成24年	3月31日
馬 越 かよ子	平成24年	4月	1日～令和 3年	3月31日
池 内 ますみ	令和 3年	4月	1日～令和 8年	3月31日

(3) 園長

附属生駒幼稚園

(昭和52年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 生駒佐保幼稚園)

有 馬 タツエ	昭和51年	4月	1日～平成 4年	3月31日
藤 井 智加子	平成 4年	4月	1日～平成 5年	3月31日

(平成5年4月から奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園)

藤 井 智加子	平成 5年	4月	1日～平成24年	3月31日
奥 畑 栄 一	平成24年	4月	1日～平成27年	3月31日
片 岡 三 和	平成27年	4月	1日～令和 3年	3月31日
福 田 幹 子	令和 3年	4月	1日～令和 6年	3月31日
松 村 利江子	令和 6年	4月	1日～(現在に至る)	

認定こども園附属河内長野幼稚園

(昭和49年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 河内長野佐保幼稚園)

村 上 尉 代	昭和49年	4月	1日～昭和50年	3月31日
今 市 良 子	昭和50年	4月	1日～平成 5年	3月31日

(平成5年4月から奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園)

今 市 良 子	平成 5年	4月	1日～平成14年	3月31日
中 村 裕 子	平成14年	4月	1日～平成27年	3月31日

(平成27年4月から認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園)

中 村 裕 子	平成27年	4月	1日～令和 4年	3月31日
川 崎 隆 史	令和 4年	4月	1日～令和 7年	3月31日
井 原 隆 行	令和 7年	4月	1日～(現在に至る)	

附属倉敷幼稚園

(昭和51年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 倉敷佐保幼稚園)

中 村 淑	昭和51年	4月	1日～昭和53年	9月14日
長 坂 淳 子	昭和53年	9月15日	～昭和61年	8月31日
本 田 慧	昭和61年	9月	1日～平成 5年	3月31日

(平成5年4月から奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園)

本 田 慧	平成 5年	4月	1日～平成 7年	8月31日
竹 内 一二美	平成 7年	9月	1日～平成10年	3月31日
本 田 慧	平成10年	4月	1日～平成15年	7月31日
橋 爪 操	平成15年	8月	1日～(現在に至る)	

5. 奈良佐保短期大学名誉教授

菅 沼 美 子	栄 利 秋	戸 口 勉	松 井 静 子	梶 田 武 俊	南 園 節 教
大 石 正	矢和多多姫子	中 村 妙 子	馬 越 かよ子	宮 川 久 美	池 内 ますみ

6. 運営・組織機構（主たる業務・分掌を含む）

（別記 43 頁）

7. 役員

（令和 7 年 5 月 1 日現在）

理事長	倉 田 清				
理 事	池 内 ますみ	荻 田 義 雄	倉 田 清	栗 岡 隆 顕	野 口 哲 子
	橋 爪 操	疋 田 洋 子	松 尾 欣 枝		
監 事	岡 田 伸 子	山 川 明 子			
評議員	磯 邊 ゆ う	川 崎 隆 史	北 口 照 美	島 村 知 歩	杉 原 麻 起
	平 井 タカネ	前 迫 ゆ り	松 村 利江子	森 本 伊津子	

8. 理事会、評議員会の開催状況

(1) 理事会

開催日	審議事項
（令和 6 年度）	
令和 6 年 5 月 2 5 日	令和 5 年度事業実績報告について 令和 5 年度決算について 私立学校法改正に伴う学校法人佐保会学園寄附行為改正案について 現行の学校法人佐保会学園寄付行為の一部改正について 理事・評議員の退任について 学校法人佐保会学園法人本部長の選任について 奈良佐保短期大学の閉校後の活用案について 奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園運営規程の一部改正について 学校法人佐保会学園奈良佐保短期大学の今後の在り方について 学校法人佐保会学園理事・評議員の人選について
令和 6 年 6 月 2 5 日	理事・評議員の退任について 学校法人佐保会学園寄附行為変更認可までの理事長について 認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園長選考について 奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園外構工事について
令和 6 年 7 月 2 0 日	学校法人佐保会学園理事・評議員候補者の選任について 学校法人佐保会学園奈良佐保短期大学の今後の在り方について 奈良佐保短期大学ガバナンス・コード遵守状況について
令和 6 年 1 0 月 2 6 日	理事長の選任について 学校法人佐保会学園経営改善計画の修正について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 学校法人佐保会学園所有の赤倉高原別荘地について 奈良佐保短期大学附属幼稚園の名称変更について 奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園利用定員変更について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園空調設備改修について 奈良佐保短期大学附属幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について 認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園長選考について
令和 6 年 1 1 月 8 日	理事長職務の代理者の選任について
令和 6 年 1 2 月 1 4 日	令和 6 年度補正収支予算について 令和 7 年度事業計画について
令和 7 年 3 月 2 2 日	

	令和7年度当初予算について
	内部統制システム整備の基本方針（案）について
	令和8年度からの奈良佐保短期大学附属幼稚園名称について
	奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園運営規定の一部改正について
	評議員の交代について
	奈良佐保短期大学教員人事について
(令和7年度)	
令和7年 5月24日	令和6年度事業実績報告について
	令和6年度決算について
	監事、評議員並びに会計監査人の選任について
	学校法人佐保会学園役員及び評議員の報酬等に関する規程の改正について
	認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園教室床時張替及び屋根改修工事について
令和7年 8月22日	監事候補者の選任について
	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園就業規則及び給与規程の一部改正について
	学校法人佐保会学園寄附行為の一部改正について
	学校法人佐保会学園 奈良佐保短期大学ガバナンス・コードの遵守状況について
	第2回評議員会へ提案する議案について
令和7年12月19日	学校法人佐保会学園経営改善計画の改訂について
令和7年 3月 9日	奈良佐保短期大学の閉学及び短期大学廃止認可申請について
(令和7年 3月19日)	奈良佐保短期大学不動産及び動産の売却について
	短期大学廃止に係る学校法人佐保会学園寄附行為の一部改正について
	令和7年度補正収支予算について
	令和8年度事業計画について
	令和8年度当初予算について
	学校法人佐保会学園理事及び評議員の条項変更について
	奈良佐保短期大学附属各幼稚園の園則及び運営規程の一部改正について
	奈良佐保短期大学名誉教授称号授与について
	第3回評議員会へ提案する議案について

(2) 評議員会

開催日	諮問事項
(令和6年度)	
令和6年 5月25日	令和5年度事業実績報告について
	令和5年度決算について
	私立学校法改正に伴う学校法人佐保会学園寄附行為改正案について
	現行の学校法人佐保会学園寄附行為の一部改正について
	理事・評議員の退任について
	奈良佐保短期大学の閉校後の活用案について
	奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園運営規程の一部改正について
令和6年 6月25日	学校法人佐保会学園奈良佐保短期大学の今後の在り方について
	学校法人佐保会学園理事・評議員の人選について
令和6年 7月22日	理事・評議員の退任について

令和6年10月26日	学校法人佐保会学園寄附行為変更認可までの理事長について
	認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園長選考について
	奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園外構工事について
	学校法人佐保会学園理事・評議員候補者の選任について
	学校法人佐保会学園奈良佐保短期大学の今後の在り方について
令和6年12月14日	奈良佐保短期大学ガバナンス・コード適合（遵守）状況報告書について
	学校法人佐保会学園経営改善計画の修正について
	奈良佐保短期大学学則の一部改正について
	学校法人佐保会学園所有の赤倉高原別荘地について
	奈良佐保短期大学附属幼稚園の名称変更について
令和7年 3月22日	奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園利用定員変更について
	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園空調設備改修について
	奈良佐保短期大学附属幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について
	令和6年度補正収支予算について
	令和7年度事業計画について
	令和7年度当初予算について
	内部統制システム整備の基本方針（案）について
	令和8年度からの奈良佐保短期大学附属幼稚園名称について
	奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園運営規定の一部改正について
	評議員の交代について
(令和7年度)	
令和7年 5月24日	令和6年度事業実績報告について
	令和6年度決算について
	監事、評議員並びに会計監査人の選任について
	学校法人佐保会学園役員及び評議員の報酬等に関する規程の改正について
	認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園教室床張替及び屋根改修工事について
令和7年 9月 2日	監事候補者の選任について
	学校法人佐保会学園寄附行為の一部改正について
	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園就業規則及び給与規程の一部改正について
令和8年 3月16日	奈良佐保短期大学の閉学及び短期大学廃止認可申請について
	学校法人佐保会学園寄附行為の一部改正について
	学校法人佐保会学園理事及び評議員の条項変更について
	奈良佐保短期大学不動産及び動産の売却について
	令和7年度補正収支予算について
	令和8年度事業計画について
	令和8年度当初予算について
	奈良佐保短期大学附属各幼稚園の園則及び運営規程の一部改正について

9. 役職員

(令和7年5月1日現在)

(1) 法人本部

理事長
事務室長

倉 田 清
屋 形 剛 久

(2) 奈良佐保短期大学

学 長	池 内 ますみ
副学長	前 迫 ゆ り
生活未来科長	島 村 知 歩
生活福祉コース長	武 田 千 幸
食物栄養コース長	飯 田 晃 朝
ビジネス・キャリアコース長	吉 村 司
地域こども学科長	前 迫 ゆ り
学科長補佐	吉 田 香代子
日本語教育別科長（併）	武 田 千 幸
事務局顧問	倉 田 清
事務局 長	藤 本 友 宏
総 務 部 長	藤 本 友 宏
教育支援センター長（併）	森 永 夕 美
副センター長	江 本 友規子
副センター長	菅 田 知 栄
学生・キャリア支援センター長（併）	上 田 利 博
副センター長	高 屋 有 加
副センター長	荒 川 隆
情報メディアセンター長	川 崎 敬 二
I R推進室長（併）	中 田 奈 月
地域・国際連携センター長（併）	杉 原 麻 起
自己点検評価室長（併）	中 田 奈 月

(3) 附属幼稚園

生駒幼稚園長	松 村 利江子
主 任	貞 佳 子
認定こども園河内長野幼稚園長	井 原 隆 行
副園長	中 野 朝 美
倉敷幼稚園長	橋 爪 操
主 任	山 地 麻 美

10. 職員数

・教員等の現員

（各年5月1日現在）単位：人

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備 考
短期大学	47 (43)	43 (45)	44 (39)	38 (39)	32 (39)	
学長	1	1	1	1	1	
副学長	1	1	2	1	1	
教授	9	8	10	11	12	
准教授	4	6	4	4	3	
講師	10	7	8	4	2	
助教・助手	4	3	3	3	3	
その他の職員	18	17	16	14	10	

幼稚園	3 5 (10)	3 4 (11)	3 3 (12)	3 2 (14)	3 1 (16)	
生駒幼稚園	1 6 (4)	1 5 (5)	1 4 (6)	1 4 (7)	1 3 (9)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	1 4 (4)	1 3 (5)	1 2 (6)	1 1 (7)	1 0 (9)	
その他の職員	1	1	1	2	2	
河内長野幼稚園	9 (3)	9 (3)	1 0 (2)	9 (2)	9 (4)	
園長	1	1	1	1	1	
副園長	0	0	1	1	1	
教諭	8 (3)	8 (3)	8 (2)	7 (2)	7 (4)	
その他の職員	0	0	0	0	0	
倉敷幼稚園	1 0 (3)	1 0 (3)	9 (4)	9 (5)	9 (3)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	7 (3)	7 (3)	6 (4)	6 (5)	6 (3)	
その他の職員	2	2	2	2	2	

注：() 内は非常勤を示す

1 1. 附属図書館

(1) 図書及び雑誌

(令和 7 年度末現在)

内国書	外国書	計	備 考
50,374 冊	1,254 冊	51,628 冊	

(2) サービス状況

入館者数・貸し出し者数・冊数

区分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
入 館 者 数	12,486 人	14,312 人	11,623 人	12,120 人	9,446 人
貸し出し者数	1,427 人	1,362 人	1,270 人	1,283 人	622 人
貸し出し冊数	4,228 冊	3,589 冊	3,226 冊	3,563 冊	2,296 冊

文献複写件数

学内・学外からの受付件数

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
学内からの受付	70 件	36 件	192 件	560 件	223 件
学外からの受付	4 件	1 件	1 件	1 件	0 件
外部へ依頼	12 件	16 件	20 件	17 件	3 件

図書館間相互貸借

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
貸 出	0 件	2 件	0 件	2 件	0 件
借 受	1 件	0 件	3 件	1 件	0 件

12. 外部資金

科学研究費補助金

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和6年度	令和7年度
基盤研究	— 件	2 件	3 件	3 件	3 件
(C)	— 円	3,061,462 円	2,600,000 円	2,600,000 円	2,925,000 円
若手研究	— 件	— 件	— 件	— 件	— 件
(B)	— 円	— 円	— 円	— 円	— 円

II 財務の概要

1. 監事の監査状況と監査内容

令和6年度決算分

財産状況の監査（決算・期中監査）

実施日 令和7年5月23日（決算・期中）

対象分野・事項

（決算関係：収支決算書に基づき元帳、証拠書類を閲覧突合しながら監査を行う）

（期中関係：学生納付金等収入金関係及び人件費関係の支出、施設関係の土地及び建物関係の監査を行う）

監査結果（指摘事項なし）

公認会計士との連携の状況

実施日 令和7年5月23日

（互いに監査結果を照合し、意見交換を行う）

結 果 財産状況、理事の業務執行状況についての理事への意見具申 なし

令和7年度決算分

財産状況の監査（決算・期中監査）

実施日 令和8年5月21日（決算・期中）

対象分野・事項

（決算関係：収支決算書に基づき元帳、証拠書類を閲覧突合しながら監査を行う）

（期中関係：学生納付金等収入金関係及び人件費関係の支出、施設関係の土地及び建物関係の監査を行う）

監査結果（指摘事項なし）

公認会計士との連携の状況

実施日 令和8年5月21日

（互いに監査結果を照合し、意見交換を行う）

結 果 財産状況、理事の業務執行状況についての理事への意見具申 なし

2. 公認会計士の監査状況

7 年 3 月 3 日・ 4 日	期中監査（幼稚園監査を含む）
〃 4 月 2 日	期末監査及び現金・預金証書等実査
〃 5 月 21 日～23 日	決算監査
〃 9 月 8 日～ 9 日	監査計画・計画概要説明
〃 12 月 9 日～10 日	期中監査
8 年 5 月 19 日～21 日	決算監査

3. 貸借対照表の要約

資産の部

単位円

科 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
固定資産	1,782,464,745	1,736,897,782	1,795,034,104	1,765,964,232
有形固定資産	1,677,716,237	1,632,149,274	1,690,285,596	1,661,215,724
その他の固定資産	104,748,508	104,748,508	104,748,508	104,748,508
流動資産	1,113,476,153	1,058,584,404	848,083,552	782,001,739
資産の部合計	2,895,940,898	2,795,482,186	2,643,117,656	2,547,965,971

4. 財産目録の要約

単位円

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
資産総額	2,895,940,898	2,795,482,186	2,643,117,656	2,547,965,971
基本財産	1,782,464,745	1,736,897,782	1,795,034,104	1,661,215,724
運用財産	1,113,476,153	1,058,584,404	848,083,552	886,750,247
負債総額	248,374,313	230,835,199	217,982,683	290,831,423
正味財産	2,647,566,585	2,564,646,987	2,425,134,973	2,257,134,548
資 産				
基本財産				
(イ)土地	834,383,143	831,527,763	831,527,763	830,908,628
(ロ)建物	653,360,851	615,512,913	689,180,349	676,591,988
建物	565,135,425	535,902,931	625,252,558	615,896,691
建物付属設備	67,019,608	51,794,422	38,046,788	36,140,698
構築物	21,205,818	27,815,560	25,881,003	24,554,599
(ハ)図書	158,475,386	158,025,713	151,141,752	137,190,961
(ニ)教具、校具、備品 及び標本	30,938,883	26,772,897	18,373,730	14,054,978
(ホ)その他の固定資産	104,748,508	104,748,508	104,748,508	2,469,169
運用資産				
(イ)預金、現金	1,030,970,075	980,213,837	768,450,498	725,807,557
預金	1,030,186,815	979,705,040	767,679,477	724,844,816
現金	783,260	508,797	771,021	962,741
(ロ)積立金	0	0	0	100,000,000
(ハ)未収入金	80,740,317	76,846,586	78,643,541	56,172,917
(ニ)長期前払金	1,765,761	1,523,981	989,513	29,040
(ホ)電話加入権	0	0	0	2,319,468
(ハ)保証金	0	0	0	2,400,000
(ホ)立替金	0	0	0	21,265
負 債				
固定負債				
(イ)退職給与引当金	166,985,871	160,337,773	157,548,883	9,714,000
(ロ)長期未払金	1,317,380	0	0	0
流動負債	80,071,062	70,497,426	60,433,800	281,117,423
(イ)未払金	24,259,786	30,083,666	11,682,030	55,689,816
(ロ)前受金	43,614,000	30,020,000	2,250,000	1,425,000

(ハ)預り金	12,197,276	10,393,760	46,501,770	205,464,030
(ニ)賞与引当金	0	0	0	18,538,577

5. 資金収支・事業活動収支決算の要約

(1) 資金収支決算

収入の部

単位円

科 目	4 年度決算額	5 年度決算額	6 年度決算額	7 年度決算額
学生生徒等納付金収入	211,291,499	160,363,333	112,296,832	42,351,404
手数料収入	3,756,500	5,023,000	3,422,880	2,305,600
寄付金収入	4,392,800	4,300,000	3,791,234	2,165,180
補助金収入	320,074,416	328,188,505	289,904,758	300,530,631
資産運用収入	1,064,555	663,211	933,022	1,822,388
資産売却収入	143,000,000	102,855,380	0	50,000
事業収入	98,399,045	95,425,211	95,050,135	79,067,282
雑収入	14,345,691	25,527,580	20,338,379	13,963,621
前受金収入	43,614,000	30,020,000	2,250,000	1,425,000
その他の収入	273,663,178	344,899,328	449,361,829	422,005,122
資金収入調整勘定	△133,989,317	△120,460,586	△108,663,541	△58,422,917
前年度繰越支払資金	915,798,551	1,030,970,075	980,213,837	768,450,498
収入の部合計	1,895,410,918	2,007,775,037	1,848,899,365	1,575,663,809

支出の部

単位円

科 目	4 年度決算額	5 年度決算額	6 年度決算額	7 年度決算額
人件費支出	451,043,775	449,004,680	426,761,360	480,169,026
教育研究経費支出	134,989,852	124,538,605	113,971,473	91,558,159
管理経費支出	78,351,189	77,947,015	65,281,139	62,509,875
施設関係支出	19,293,630	10,085,865	118,572,550	32,226,280
設備関係支出	6,062,999	4,770,788	1,587,944	6,659,680
資産運用支出	0	100,000,000	0	0
その他の支出	194,095,229	292,026,874	367,480,412	233,462,561
仮受金支払支出	0	0	0	764,503
資金支出調整勘定	△19,395,831	△30,812,627	△13,206,011	△56,679,329
次年度繰越支払資金	1,030,970,075	980,213,837	768,450,498	725,807,557
支出の部合計	1,895,410,918	2,007,775,037	1,848,899,365	1,575,713,809

(2) 事業活動収支決算

単位円

区 分		科 目	7 年度決算額
教育活動収支	事業活動 収入の部	学生生徒等納付金	42,351,404
		手数料	2,305,600
		寄付金	2,165,180
		経常費等補助金	300,362,631
		付随事業収入	79,067,282
		雑収入	34,505,559
		教育活動収入計	460,757,656
	事業活動 支出の部	人件費	385,884,517
		教育研究経費	143,991,752
		管理経費	63,462,182
		教育活動支出計	593,338,451
教育活動収支差額		△132,580,795	
教育活動外収支	事業活動 収入の部	受取利息・配当金	1,822,388
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	1,822,388
	教育活動外収支差額		1,822,388
経常収支差額		△130,758,407	
特別収支	事業活動 収入の部	資産売却差額	2,180,865
		その他の特別収入	168,000
		特別収入計	2,348,865
	事業活動 支出の部	資産処分差額	16,700,797
		その他の特別支出	22,890,086
		特別支出計	39,590,883
特別収支差額		△37,242,018	
基本金組入前当年度収支差額		△168,000,425	
基本金組入額合計		△37,070,960	
当年度収支差額		△205,071,385	
前年度繰越収支差額		△2,061,568,300	
基本金取崩額		29,165,540	
翌年度繰越収支差額		△2,237,474,145	
事業活動収入計		464,928,909	
事業活動支出計		632,929,334	

(3) 教育研究経費比率

(教育研究経費比率(%)＝教育研究経費支出÷帰属収入×100)

学校法人佐保会学園（全体）

単位円

区分	帰属収入合計	教育研究経費支出	教育研究経費比率%
令和 4年度	655,470,795	181,929,006	0.278
令和 5年度	623,810,529	170,973,768	0.274
令和 6年度	525,737,240	159,143,480	0.303
令和 7年度	464,928,909	143,991,752	0.31

6. 土地建物

単位㎡

区 分	土 地	建物延面積	備 考
短期大学	33,870	11,146	借地合計：3,505 ㎡
校舎・講堂・体育施設	12,132	10,729	
屋外運動場	17,812	—	
その他	3,926	417	
附属生駒幼稚園	3,811	1,356	
建物敷地等	2,845	1,356	
屋外運動場等	966	—	
附属河内長野幼稚園	1,824	695	
建物等	1,274	695	
屋外運動場等	550	—	
附属倉敷幼稚園	3,028	574	
建物敷地等	1,389	574	
屋外運動場	1,639	—	
合 計	42,533	13,771	

Ⅲ 事業の概要等

1. 奈良佐保短期大学

令和 7 年度は奈良佐保短期大学にとって、重大な転換を迎える年度となった。令和 5 年 12 月 23 日（土）に行われた理事会において、令和 7 年度以降の学生募集を停止する旨の決定がされ、全在学生在が卒業する令和 8 年 3 月 31 日をもって閉学することとなった。令和 7 年度学生募集停止決定の主な要因として、急激な少子化の進行、高校生の四年制大学志向が顕著になってきたこと、高等教育無償化の充実等により短期大学の志願者が急激な減少傾向等々があげられる。

これにより、学生がすべて卒業等となる 7 年度末をもって、奈良佐保短期大学はし、今後は短期大学附属の 3 幼稚園の運営と卒業生等のフォローに注力していくこととしている。

以下、令和 7 年度における各学科・委員会・部署ごとの主な事業実績報告である。

1. 教育、研究等に関する事業

(1) 生活未来科

生活未来科の特色を活かした教育の充実

(ア) 生活未来科成果報告会の実施 継続（平成 23 年度～）

令和 8 年 2 月 7 日（土）に奈良県介護人材対策補助事業の一環で「知ろう 考えよう生活と未来 ーインクルーシブな地域社会づくりのためにー」と題して、東大寺総合文化センター金鐘ホールで地域こども学科と合同で成果報告会を実施した。オンラインでも配信した。

当日のプログラム

タイムスケジュール	内容
13 : 00	開会挨拶：池内学長 司会： ビジネスキャリアコース 2 回生 第 1 部 トークセッション 知ろう 考えよう生活と未来 ーインクルーシブな地域社会づくりのためにー 介護・福祉・教育に様々な立場で関わる卒業生が登壇し、卒業から今まで、現在の仕事での課題、自分なりの仕事への拘わり方、考え方、大事にしていることなど、さまざまな視点で話をしてもらった。 【スピーカー】 武田 初代氏（1982 年卒業 三重県医療センターつくしんぼ保育園 園長） 杉本 共美氏（1988 年卒業 介護老人保健施設リンク樫原 栄養課課長） 竹内 一泰氏（2010 年卒業 特別養護老人ホーム高秀苑 ユニットケア推進委員） 原田 龍ノ助氏（2021 年卒業 奈良市立鼓阪北小学校教諭） 玉置 真琳氏（2023 年卒業 五條市市役所あんしん福祉部介護福祉課保険係） 【進行】生活未来科 島村知歩
14 : 35	第 2 部 成果報告会 司会：ビジネスキャリアコース 2 回生 発表：①BC コース発表 ②生活福祉コース発表 ③食物栄養コース発表 ④地域こども学科発表
16 : 50	閉会挨拶：前迫副学長

(イ) 地域連携の強化 継続（平成 28 年度～）

令和 7 年 8 月 9 日（土）10 日（日）は奈良県コンベンションセンターで開催された「大和鉄道まつり 2025」に地域こども学科も協働で出展した。8 月 16 日（土）は食物栄養コース・生活福祉コースの学生有志が作ったわらび餅を護国神社で開催された「東市高円の杜夏祭り」で販売し、近隣施設や地域の方々と交流した。後期には、11 月 15 日（土）に地域こども学科主催のこどもフェスタで食物栄養コースが農園野菜を使用したカレーの提供、またコロナ以降福祉交流会として、お世話になっている施設を招いての企画を実施してきたが、今年度は 11 月 26 日（水）に食物栄養コースの給食管理実習のランチ提供を活用し、生活福祉コースの学生がおもてなしをする機会を設け交流した。

また、12 月 13 日（土）に里親クリスマス会で食物栄養コースがランチ提供で協力した。

(ウ) 地域に求められる大学運営 新規

各コースの学生、教員が自分たちの学びや研究、取組を活かしてイベントの企画から実施、講座の講師、ボランティアスタッフとして参画するなど地域に還元できた。詳しくは、各コースの事業報告で述べる。

<生活福祉コース>

(ア) ゼミナールⅠにおいて研究活動の充実を図る 継続（令和 2 年度～）・新規

2 回生 7 名が、3 つのフィールドに分かれて活動することに困難さがあることから、フィールドにこだわらず、学生個人の関心のあることについて研究することとした。学生は「皆を支える介護ロボット」、「知的障害者×アート」、「温泉がこころとからだに与える影響」、「映像を用いた回想法と懐かしさが高齢者に与える影響」「紅茶がもたらす癒しと健康」「ネイルが高齢者へ与える影響について」「世界のトイレ事情」についてそれぞれ研究を行った。大学祭の学科展示でポスター発表を行い、1 名は卒業研究発表会で発表した。

また、成果報告会においても 2 名がそれぞれの研究を発表した。

(イ) 介護福祉士国家試験 継続（平成 29 年度～）

- ・ 中央法規出版の模擬試験を 11 月 3 日（月）に実施、5 名が受験した。
- ・ 後期の専門ゼミナール 15 回、介護総合演習Ⅳ15 回中の 4 回、介護過程Ⅳ30 回中の 6 回、国家試験対策講座を行った。
- ・ 1 月 5 日（月）から国家試験当日までの期間、Google フォームを活用して対策問題を 18 回配信し、学生の回答に対して追加説明のためのコメントを返却した。
- ・ 1 月 25 日（日）に国家試験を 5 名が受験した（大阪会場：インテックス大阪、京都会場：立命館大学衣笠キャンパス）。3 月 16 日（月）に合格発表があり 5 名全員が合格した。

(ウ) 介護実習の在り方の検討 継続（平成 29 年度～）

- ・ 例年実習に際して、専任教員が実習指導者と事前打ち合わせ・実習巡回指導・実習終了後の面談を行い、学生の実習状況の把握に努めている。令和 7 年度もすべての実習を学外実習施設で実施することができた。

5/26～6/22	介護実習Ⅲ（施設 20 日間）	学外実習施設
10/12～11/22	介護実習Ⅲ（居宅 2 日間）	

- ・ 介護実習Ⅲ（施設）においては前日に学生全員に抗原検査を実施し、陰性を確認した上で実習を開始した。介護実習Ⅲ（居宅）の時期は新型コロナウイルスの流行が落ち着いていたため実施しなかった。体調管理シートの記入は両実習において実施した。

(エ) 卒業研究発表会の実施・在り方の検討 継続・新規

① 卒業研究発表会の実施

- ・ 「卒業研究発表会」を 12 月 2 日（火）に開催した。昨年同様介護実習Ⅲに参加していない学生のゼミナールⅠでの研究発表も行った。卒業生の発表の場を設けるため、「介護現場における実践報告」も同日に行った。
- ・ 生活福祉コース 2 回生のうち事例研究発表を 5 名が行った。ゼミナールⅠでの研究発表は 2 名を予定していたが、1 名は体調不良により欠席となり、1 名が発表した。

- ・ 2 回生が 2 年間で実習に行った施設（13 施設）へ開催案内を送付し、4 施設 6 名の指導者及び施設職員が参加した。会場で参加した指導者（3 名）に学生の発表に対しての講評を依頼した。チームマネジメント授業で講師に来ていただいた方へも案内し、2 施設 4 名の参加があった。
 - ・ 当日の会場参加は 34 名（生活福祉コース学生 6 名、学長、生活未来科長、生活福祉コース教員 3 名、教職員 2 名、卒業生 11 名、実習指導者及び施設関係者等 10 名）、Google meet での参加者は、6 名（他大 学教員 1 名、教職員 5 名）であった。
 - ・ 発表会の様子を Google meet で配信することにより来場がかなわなかった参加希望者や学内部署及び教 職員の視聴につながった。録画したものを教職員クラスルーム及び科目クラスルームにアップし、リア ルタイムで視聴ができなかった教職員や学生の保証人が閲覧できた。
- ② 卒業研究発表会の在り方の検討
- ・ 学生が 7 名であり発表数が少ないこと及び、最後の発表会となることから、以前に行っていた介護現場 の職員による実践報告を実施した。卒業生にも発表を呼びかけることで卒業生が交流できる場としたい と考え、あせび会の公式 LINE を活用し、発表を呼びかけた。
- また、卒業生への案内の他、実習施設へも演題を募集した結果、6 組 8 名の発表につながった。発表者 すべて卒業生であった。

<食物栄養コース>

（ア）栄養士専門科目の学びをより充実させ、栄養士就職に繋げるための授業の改善

「基礎ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅡ」授業内容の充実 継続（平成 28 年度～）

- ① 令和 7 年度以降学生募集停止に伴い 1 回生不在のため、「基礎ゼミナールⅡ」は開講せず。
- ② 「ゼミナールⅡ（2 回生通年）」では、令和元年度以降継続している、就職活動、給食管理実習、学外実 習等に係る事項について令和 7 年度についても計画的に取り組んだ。就業してからの具体的な勤務を配 慮した学外実習に向けて、授業時間を活用し情報共有しながら準備を進めていけるように工夫した。さ らに後期は学外実習の準備に加え、栄養士実力認定試験対策を行い、令和 7 年度は 21 名が受験し、A 判 定 16 名（76.2%）、B 判定 3 名（14.3%）、C 判定 2 名（9.5%）であった。【参考：令和 6 年度は 21 名が 受験し、A 判定 15 名（71.4%）、B 判定 5 名（23.8%）、C 判定 1 名（4.8%）】

（イ）栄養士+α の力をつけるための授業の取組

「ゼミナールⅠ」フィールド制科目における取組の見える化 継続（平成 28 年度～）

- ① 「ゼミナールⅠ（フィールド）」は、前期（2 回生）は、各フィールド 1 回生後期での取組を活かし、2 回生前期でも引き続き実践活動に取り組み、イベントでの商品の販売、講座の開催等を実施した。 各フィールドで下記の内容に取り組んだ。

医療・福祉フィールド	●咀嚼・嚥下機能が低下した喫食者に対しての介護食の調理を行った。 ●7/12 グループホーム「なごやか」の利用者と職員に対して、昼食の献立「SAHO の 彩り初夏ランチ」を作成し、調理して提供した。
食育フィールド	●6/19「子育て広場ゆめの丘 SAHO」を利用する未就園児の親子 7 組に、親子クッキ ングを実施し、米粉ピザとミネストローネと一緒に調理し試食してもらい、レクリエ ーションでは絵本の読み聞かせを実施した。 ●朝ごはんコンテストに「おにぎり食べてにこにこーン♪」を応募した。
製菓フィールド	●アレルギー対応、咀嚼・嚥下機能低下対応のおやつを考案した。 ●各グループでクリスマスケーキやスイーツを考案し、ティーパーティーを実施した。 ●8/9・10 鉄道祭りに向け、スイーツを考案、作製し、販売した。
フードビジネスフィールド	●3/28「奈良の食材再発見！春～いちごと葛の魅力～」として、葛餅作りの実演、吉 野葛を使用したオリジナルデザートを試食、3 種のいちごの食べ比べといちごと葛 に関する展示を、クロスウェイ中町にて実施した。 ●5/15 鹿肉を使用したジビエ料理「鹿肉のリエット」と、吉野葛を使用した「葛豆腐

	2種」を考案し、レストラン鹿野園で試食会を実施した。 ●減塩レシピコンテスト S・1 グランプリに「鶏肉とほうれん草のキッシュ」を応募した。 ●11/23 の市場祭りに向けて鹿肉や奈良の特産品を使用した「大和うまいもんオールスターカレー」を考案した。 ●8/30「奈良の食材再発見！夏～大和の夏を味わう～」として、参加者に農園で野菜収穫をしてもらい、オリジナル素麺冷麺とチヂミを調理し、奈良ブランド肉や大和スイカのかき氷の試食を実施した。
--	---

- ② 後期（2回生）では、11月15日（土）のこどもフェスタに向けて、学外実習を履修できなかった学生が参加した。フェスタの参加者に食育実践演習で自分たちが栽培した野菜を使用したカレーを提供した。
- また、11月23日（日）奈良県中央卸売市場で行われた「冬の市場まつり」に2回生有志2名と卒業生3名、コース教員で参加、出店し、「大和うまいもんオールスターカレー」230食を販売した。同時に開催された「大学生の自慢料理コンテスト」で奈良県県議会賞を受賞した。

（ウ）地域連携の強化 継続（平成29年度～）

ゼミナール等を活用した地域活動

- ・ 3月28日（土）
フードビジネスフィールド3名と有志2名がクロスウェイ中町にて、「奈良の食材再発見！春～いちごと葛の魅力～」として、葛餅作りの実演、吉野本葛を使用したオリジナルデザートの試食、3種のいちごの食べ比べと、いちごと葛に関する展示を実施した。
- ・ 6月19日（木）
食育フィールド2名が「子育て広場ゆめの丘 SAHO」の利用者7組に向けて親子クッキングを実施し、農園の野菜等を使用した米粉ピザとミネストローネと一緒に調理し試食してもらった。また、レクリエーションでは絵本の読み聞かせを実施した。
- ・ 7月12日（土）
医療・福祉フィールド3名と有志2名が大和郡山市のグループホーム「なごやか」にて、利用者と職員に対して、考案した昼食の献立「SAHOの彩り初夏ランチ」20食を調理し、提供した。
- ・ 8月9日（土）・10日（日）
大和鉄道まつりで、食物栄養コースの学生18名が交代で、野菜スタンプを使用した特製バック作り体験ブースを運営し（全国栄養士養成施設協会後援事業）、製菓フィールドの学生が考案し製造したスイーツと学内農園で学生が栽培した野菜などを販売した。
- ・ 8月30日（土）
フードビジネスフィールド3名と有志3名が「奈良の食材再発見！夏～大和の夏を味わう～」として、参加者に農園で野菜収穫をしてもらい、オリジナル素麺冷麺とチヂミを調理し、奈良ブランド肉や大和スイカのかき氷の試食を実施した。（全国栄養士養成施設協会後援事業）
- ・ 10月23日（土）・24日（日）
大学祭・ホームカミングデーで、食物栄養コースの2回生が中華チマキと中華スープを、専門調理を履修する学生がスイーツを調理し販売した。また学生ホールのフリードリンクコーナーも担当し、参加者の懇談の場を運営補助した。
- ・ 2回生授業「給食管理実習」で、本年度は令和7年度以降の学生募集停止に伴い1回生が不在、教職員も減少し、例年と同様の給食の提供数を確保する目的で、これまで食物栄養コースを支えて下さった様々な方々を大学にご招待し学生が考案し調理した給食を提供した。学外の方に召し上がっていただくことは、学生の学びの効果が大きかっただけでなく、地域の方との交流の場にもなった。

6月18日（水）障がい者地域共生拠点「イマジン」の利用者 15名

6月25日（水）「附属生駒幼稚園」の園児 48名

- 10月22日（水）「ぶどうの木保育園」の園児 35名
- 11月24日（水）障がい者施設「kumiki」の利用者 17名
- 12月3日（水）公開授業参加者 11名
- 12月13日（土）「奈良県里親の会」の方々 71名

（エ）その他

- ・ 5月29日（木）
附属生駒幼稚園の4歳児、5歳児が来学し、学内農園にてサツマイモの苗植えを体験した。
- ・ 7月1日（火）・4日（金）
食育実践演習を履修する学生3名が4月18日に播種したマリーゴールドを、花いっぱい運動として、食物栄養コース学生有志が大学の近隣の鹿野園町の方々のお宅を訪問し配布した。
- ・ 9月17日（水）
出張講義で、伏見公民館主催事業 第4回伏見みやび学級にて、「そうだ！直売所に行こう！」と題し、参加者20名に対して、奈良県の特産物と各地域の直売所についての講義を実施した。
- ・ 10月30日（木）
附属生駒幼稚園の4歳児5歳児が来学し、学内農園にて5月に植えたサツマイモの収穫を体験した。
- ・ 12月3日（水）
公開講座で、「健康食品、コマーシャルにまどわされないで」と題し、参加者11名に対して、健康食品等についての講義を実施した。
- ・ 12月25日（木）
出張講義で、平城東公民館主催事業にて、「プロのパティシエに学ぶお菓子作り～基礎編～」と題し、参加者12名に対して、簡単にできるクリスマスケーキ&パフェの調理実習を実施した。
- ・ 1月20日（火）
公開講座で、「手作りに挑戦！～佐保のお味噌とキャンディ～」と題し、参加者14名に対して、味噌づくりの食品加工実習を実施した。
- ・ 2月10日（火）
親子クッキングで、「子育て広場ゆめの丘 SAHO」を利用する未就園児の親子を対象に、団子汁といきなり団子の調理実習を実施した。
- ・ 2月21日（土）
親子クッキングで、橿原市中央公民館にて、橿原市教育委員会主催令和7年度食育講座として、「旬を味わう」と題し、調理実習を実施した。
- ・ 2月26日（木）
出張講義で、連携校奈良文化高校にて、「奈良を味わう！」と題し、食文化コース2年生に対して奈良県の特産物を使用した奈良の伝統料理の調理実習を実施した。

（オ）学生確保のための取組－魅力ある食物栄養コースの発信－

本年度は開学予定のため、実施しなかった。

（カ）その他

例年お世話になっている学外実習先の受入れ条件や実習内容が通常に戻り、また近年の卒業生により新たな学外実習の受入れ先も増加し、多様化、細分化する栄養士の勤務条件に対応可能となった。例年通り、学生の特性や就職希望を考慮し、学外実習先を決定することによって、実習に行った施設等への就職につなげることができた。また、閉学に伴うホームカミングデーや食栄の集い等に、多数の卒業生が参加してくれたことにより、年代を超えた卒業生と在校生を含めた今後の関係構築のきっかけとなった。

<ビジネスキャリアコース>

(ア) インターンシップと他科目、講師、企業・団体・大学等との連携強化 継続（令和4年度～）

① 協働先の深耕

令和7年度は開講科目の減少により、これまでのような授業・実習を通じた多彩な講師陣から指導を受ける機会は少なくなったが、学生のレポート、スピーチ、プレゼンテーション能力は着実に伸長し、ひとえにこれまでの協働先のご指導により目覚ましい成長を遂げたと考えられる。これはそのまま卒業研究公聴会や成果発表会にも寄与し、各就職先においてもさらに発展されることを期待している。

② イベント運営の適性化 [再掲 1.-(1)-(イ)]

「大和鉄道まつり 2025」は予定通り令和7年8月に開催され、ビジネスキャリアコースの学生は就活等で参加が叶わなかったが、他コース他学科の学生がクラフトや物販で参加した。教職員も参加し、少人数ながら有意義なイベント実習となった。特筆すべきは、最終日のファイナルステージで主催者及び出演タレント全員がステージ上から本学ブースに向けて、閉学に対する惜別の辞と今後の活躍を祈念した最大級のエールを送ったことは、閉学までの取組を進める大きな励みとなった。

イベント運営において参加学生は、毎回一定以上の経験を積み上げ、主催者、出展者からの高い評価を受けたことから「イベント運営の適正化」については想定以上の成果を得ることができた。

(イ) カリキュラムの抜本的体系化 3.0 継続（令和6年度～）

- ① 令和3年度より、それまで理論系科目とビジネス実務系科目が散在していた科目体系を、1回生前期後期から2回生前期後期と年次に沿って段階的に学修できるように改めた。一部は4年生大学及びビジネススクール(大学院修士)で展開される科目、テーマであるが、短期大学2年で無理なくかつ可能な限り実ビジネスに直結し、必要な基礎理論を学修できるように体系化した。令和6年度に引き続き「経済学」「リスクマネジメント論」など新規科目をリリースし、さらに「オフィス実務演習」「事業計画論」「マーケティング」「卒業研究」などレギュラー科目との更なるシナジー効果を意図しながらビジネス企画力、イノベーション発想力、調査分析力を強化した。

(2) 地域こども学科

(ア) 免許資格取得に向けた教育の充実の取組 継続（平成23年度～）

- ① 令和7年度卒業予定者24名中、幼稚園教諭二種免許状取得者20名、保育士資格取得者23名、小学校教諭二種免許状取得者6名であった。令和7年度の資格取得率は、幼稚園教諭免許 83.3% (R5: 70%, R6: 76%)、保育士資格は 95.8% (R5: 80%, R6: 78%) であった。小学校教諭免許は 100%取得できた (R6: 2名, 100%)。
- ② この1年間の退学者は1名であった。全員、卒業をめざしてほしいところであったが、精神的な病気を回復させるため、大学としては指導教員や教育支援センター、学生キャリア支援センターもサポートしたが、短期大学での修学継続が困難であった。

(イ) 地域こども学科における教育の充実と成果公表の取組

- ① フィールドゼミナール、基礎ゼミナールなど、学生にとって充実した初年度教育を推進中である。フィールドゼミナールの総括として、令和6年度に報告書「地域への架け橋—2024年度 フィールドゼミナールの軌跡」を発刊したが、令和7年度も全学生と全教員が原稿を寄せて、「地域への架け橋—2025年度 地域こども学科の学びと成長の軌跡」を発刊した（2月7日発刊）。
- ② 本学科で総括的位置づけをし、全教員が担当している「保育・教職実践演習」の成果をまとめた冊子を発刊した。

(ウ) 就業力の育成について

キャリア実績としては、幼稚園、保育園、施設など、資格を生かしたキャリアにつくことができている。令和8年1月末時点で、全学生25名中、小学校5名、幼保こども園13名、福祉施設3名（1名内定含む）、療育（保育士資格有）2人、その他1、未定1名

以上、1月30日時点での就職率は96% 幼保小免許での就職率は92%である。

(エ) 地域貢献事業の実施について

恒例行事となっている以下の①～④の地域連携イベントを実施した。

- ① 地域こどもフェスタ（於：本学）
- ② 里親クリスマス会（於：本学）
- ③ 大和鉄道祭り（於：奈良市コンベンションセンター）
- ④ 成果報告会（於：東大寺総合文化センター）

(3) 研究紀要の刊行 継続（昭和 51 年度～）

本学教職員の研究成果を発表する機会としての「奈良佐保短期大学研究紀要」第 33 号の発行

「奈良佐保短期大学研究紀要」第 33 号を 3 月 31 日（火）Web 発刊した。掲載内容は、原著論文 2 報、研究ノート 1 報の計 3 報である。

国立国会図書館には、印刷したものを一部送付し、「奈良佐保短期大学機関リポジトリ」に新規登録分（33 号）のデータ登録をした。

2. 閉学に向けて

令和 7 年度末の閉学に向け、書類の廃棄を進めるなど学内の整理に努めた。併せて、必要な備品等をリストアップし、廃棄を実施することで、来年度への引き継ぎに向けた大学資産の整理を行った。

次年度以降は幼稚園を運営する法人となるため、現在総務部で担っている労務関係と会計関係の業務をゆびすいグループ（税務・会計等経営コンサルティングや登記、労務、IT にいたるまで、多岐にわたる事業を展開）に委託して学校法人が円滑に運営出来るように手続きを進めた。

3. 学生支援に関する事業

<教務>

(1) 教学マネジメントの推進を図る。

(ア) 教育目標達成のため学修成果の可視化については、所定の教育課程における資格・免許の取得状況、卒業要件達成状況、単位取得状況をまとめ教授会に提出し確認・了承を得ている。

令和 7 年度は 9 月卒業の対象学生はいなかった。2 年生は在籍者 55 名（男性 10 名、女性 45 名）のうち卒業要件を満たした者 55 名（100%）が 3 月に卒業した。令和 7 年度中の退学者は、3 名であった。

GPA のデータ活用に関しては、GPA2.0 以下の学生について学科・コースにて面接指導を行い saho navi に指導の記録を記入してもらい情報の共有を行った。さらに、GPA 情報を学修成果に関する調査のデータと組み合わせて学生個人に 1 年間のふり返り資料として配付した。また、井田康子賞の受賞者決定や各学科・コースの表彰者等にも GPA のデータを活用した。

(イ) 教務委員会の円滑な審議遂行のため、教職員に向けて毎月第 3 木曜日に教務委員会を開催する予定を組んだ。前期は毎月開催したが、後期は次年度のカリキュラムや時間割等の検討の必要がなくなり、10 月以降開催していない。毎回委員会の開催前に、委員長と事務担当者で教務委員会打合せを行い、委員会資料の作成等の確認を行った。

(ウ) 学修効果を高めるために履修人数や使用教室等について配慮を行った。またパワーポイントや DVD 等映像資料の活用により学生の理解度を向上させるため、教室希望調査に則って、限られた教室の配置を工夫した。

(エ) 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）認定制度」において、令和 7 年度は修了者 11 名に、修了証書を渡すことができた。

(2) 教育的効果を踏まえた年間予定と授業 15 回確保及び時間割を策定する。

前期の学期中に実習があり、実習により不足する授業時間については補講を実施した。また、年度初めに時間割を見直し、学生がスムーズに履修できるように一部変更を行った。集中講義の実施時期についても学生が出席しやすい日程を検討し実施した。

(3) 地域社会に貢献し社会人を積極的に受け入れる。

- ① 科目等履修生を受け入れるため Web サイト等により情報を発信し、令和 7 年度は 2 名（通年 1 名、後期 1 名）が受講した。
- ② 地域・国際連携センターと連携し、1 名の聴講生を受け入れた。
- ③ 奈良県委託訓練事業に係る離職者訓練生を受け入れ、令和 7 年度には生活福祉コース 2 名、食物栄養コースに 12 名、地域こども学科に 6 名受け入れた。
- ④ 単位互換協定を結んでいる奈良県立大学より特別聴講の希望者はなかった。

(4) 募集停止に伴う業務

- ① 教員の確保とカリキュラムの維持に関しては、専任教員と非常勤講師を確保し、各学科・コースのカリキュラム通り予定していた授業を実施できた。
- ② 休学生 1 名の復学に関しては、所属学科にて意思の確認を行い、最終的に退学するとの結果になった。
- ③ 留年生が残った場合の取扱いの確認については「特別補講」を行うと学長より報告があり、前期の教務委員会にて「卒業要件にかかる授業の出欠の取り扱いに関する申し合わせ（案）」を作成し、卒業要件に引っかかるような事案に関しての手続き方法などの確認を行ったが、対象となる学生は出なかった。
- ④ 学長による卒業認定の維持に関しては、3 月 2 日（月）に卒業判定会議を行い、在籍する全ての学生の卒業を確定した。
- ⑤ 各種資格の申請先・単位互換の協定大学等への周知及び届出に関しては、それぞれの資格及び協定大学の規定に則り、期日までに退会届等を提出した。
- ⑥ 卒業生に対する卒業証明書等の管理方法の周知に関しては、大学の Web サイトにて周知を行い、閉学後も手続き申請できるようにした。

< 学生生活 >

(1) 学生支援について

(ア) キャンパスマナー、パブリックマナーを向上する。

日常的にマナー（バス乗車時のマナー、挨拶、言葉使い等）について注意や指導を行った。

(イ) 健康増進法の観点から禁煙及び受動喫煙防止についての啓発活動を行う。

学生・キャリア支援センター員で昼休みを中心に見回りを行った。敷地外での喫煙者は減少傾向にあるが、教室での喫煙の跡が確認された。普段あまり使用しない教室で人目につきにくいことから、授業時間以外は教室を施錠し喫煙防止策をとった。

(ウ) 通学時の安全面を考慮し、交通安全の啓発と指導を推進する。

自動車・自動二輪・バイク通学希望者に Youtube で JAF の交通安全講習会を視聴し、問題に解答させることを条件とした。自転車通学者には Youtube で JAF の交通ルールの確認動画を視聴させた。

(2) 学友会活動の支援について

大学祭を 2 日間開催した。また、地域の秋祭りボランティア参加やクリスマス会などのイベントを学生自身が計画し、実施する支援を行った。

(3) 留学生の支援について

留学生の在籍はなかった。

(4) 大学祭の支援について

1 日目は学生主体の大学祭、2 日目は大学協賛のホームカミングデーの 2 日間開催した。

ただし、模擬店については衛生面を考慮し学生が調理するのではなくキッチンカーを手配した。最後の大学祭であったため卒業生はもちろん、地域の方も大勢参加され盛大に行われた。

< 障害学生修学支援 >

(1) 支援を必要とする学生に対する公平で適切な修学支援の促進

- ① 委員会を 4 回開催し、障害学生の認定、支援計画の決定から支援実施後の検証を行い、支援の公正で円

滑な運営を図った。

- ② 障害学生修学支援委員会で新規に1名（生活未来科：1名）の障害学生を認定し、支援計画を策定した。
また、前年度からの継続支援として3名（生活未来科：2名、地域こども学科1名）の合計4名の学生の支援を行った。
 - ③ 個別の教育支援計画に基づき、教育支援センターと連携し、支援の調整に取り組んだ。また、進路における支援として、民間事業者をより活用して学生の意向に沿った就職情報の提供を行った。
 - ④ 学校生活における支援として、学校カウンセラーによる学生相談を行った。
- （2）支援を必要とする学生の早期認定と支援の開始
- 2回生になるに向けて支援が必要であると思われる学生を早期にカウンセラーへと繋ぎ、カウンセラーや教員と連携し、該当学生の支援を実施した。支援学生としての申請はなかったが、早期にカウンセラーへ繋ぐ事により学生の困りごとを把握し支援することができた。
- （3）障害学生のための相談体制の確保
- 学生の悩みごとに関する専門的相談窓口としてカウンセラー1名体制で週1回学生相談室を開室した。相談回数が4月から12月までの間で延べ122名、実数26名（昨年は延べ232名、実数24名）、そのうちカウンセラーによるWISE検査を実施した学生は1名となった。また、教職員による学生支援についての相談は延べ42回であった。
- （4）就職支援の充実
- 2回生となった支援学生4名に対し、本人の意向に沿った就職情報の提供を行った。支援学生4名の内、現時点で就職内定している学生はいないが、4名とも就職にむけて施設見学等に行っている。引き続き就職活動に関する支援を実施していく。
- （5）教職員の専門的能力開発のための勉強会・研修会の開催
- 学生生活・キャリア支援委員会主催の研修会「学生相談室カウンセラーへの学生対応についての相談等について」を実施。学生対応についての相談や関わり方を学んだ。

<就職指導>

- （1）進路内意率100%をめざす 継続（平成23年度～）

令和7年度は、早期から就職活動に踏み出せるように、2回生になる直前の3月26日（木）にお仕事相談会を実施し、個人面談を4月15日（火）～5月2日（金）にかけて実施した。また、地域こども学科の学生への奈良県保育人材バンクによる就職ガイダンスを前年の11月から7月に前倒しして実施したことにより、学生の就職活動を早期に開始することができた。結果的に進路内定率は61.1%で昨年より10.4%アップした。

就職内定状況に学科・コース間でばらつきが見られるため、1月中に個別に各学科担当教員と確認を行い、全学生の進路の方向性を確定させた。

また、今年度は生活未来科では国立大学を含む2名の4年制大学への編入、地域こども学科小学校教諭5名（うち非常勤講師2名）の進路が確定した。

- （2）サポートプログラムを充実させる 継続（平成24年度～）

令和7年度も引き続き、奈良県保育人材バンクや奈良新卒応援ハローワークなどの外部団体の支援を得、特に今年度は、地域こども学科の学生への奈良県保育人材バンクによる就職ガイダンスを前年の11月から7月に前倒することで、保育士コースの学生の就職活動を早期に開始できたため、早期内定者数の増加につながった。

- （3）学生・キャリア支援センターの環境を充実させる 継続（平成24年度～）

多くの学生が資格を活かした就職を目指しているが、学生の中には、進学や取得資格に関連しない業種を希望する学生がおり、学生・キャリア支援センターでは、そのような学生には、本人の希望を実現させることを最優先に、個別で面談して本人希望を確認した。

また、進路形成に支援を要する学生に対しては、各学科の教員と情報共有することで状況把握に努め、適宜

声掛けや進路に関する相談対応を実施するなど、積極的な支援を行い、円滑な進路決定につながるよう取り組んだ。

(4) 公務員試験対策講座を開講する 継続（平成 25 年度～）

令和 7 年度は、公務員対策講座としては実施しなかったが、地域こども学科では、教員の個別指導もあり、学生の進路決定につながる有意義な支援を得ることができた。

(5) 卒業生と在学生との交流の機会をつくる 継続（平成 29 年度～）

令和 7 年度も昨年に引き続き、同窓会主催のホームカミングデーが実施された。
その中で、卒業生の積極的な協力もあり、地域こども学科を中心として、学生の進路決定につながる有意義な支援を得ることができた。

(6) 卒業生に短期大学卒業生調査を行う 継続（令和 2 年度～）

令和 7 年度は、同年度以降、募集停止ということもあり、卒業生に対する短期大学卒業生調査を実施しなかった。

(7) 言語・非言語 Web テストを素養テストとして行う。 継続（令和 4 年度～）

リクナビの言語・非言語 Web テストは、素養テストとして取り入れた。
2 回生に対して、1 回実施し、その結果については、本人にフィードバックを行った。

4. 組織・運営に関する事業

(1) 図書館の運営

(ア) 学習成果の獲得に必要な授業・学生への学習支援

① 既存資料の有効活用及び相互利用の推進 継続（平成 15 年度～）

a 既存資料及び Web 情報等の有効活用

令和 7 年度は、科研費資料及び寄贈資料のみ、消耗資料 31 冊、雑誌 25 冊の受入れをした。新規資料の購入は難しいため、既存資料（電子書籍含む）を有効活用し、資料提供を迅速に行うことに努めた。無料で Web サイト公開されている資料等も信頼性のあるものを選んで積極的に紹介した。令和 7 年 3 月に作成した「『無料で公開されている調べものに役立つサイト』（2025.4）」データについても、教育支援センターの協力を得て、saho navi 学生支援情報システム内にリンクを置き、周知に努めた。

b 人的支援の推進

資料の購入が見込めないため、既存資料及び Web 情報等を有効活用するため、きめ細かなサービスに努めた。令和 7 年度は、2 回生（1 学年）のみの利用ではあったが、12 月末時点で、2 学年在籍していた昨年比の入館者数（78.6%）、貸出件数（67.3%）、レファレンス件数（80.1%）であり、パソコン利用者数は、昨年度の 7 倍の利用があった。

c 学生・教員の学修・研究を支援する相互利用の推進 継続（平成 21 年度～）

国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムを活用し、他大学との文献複写、相互貸借を行った。件数は、文献複写（受付 0 件、依頼 2 件）、相互貸借（貸出 0 件、依頼 0 件）、他大学への参考調査依頼（39 件）、他大学への紹介状発行（19 件）であった。

② 学習方法の支援（講習会）

a 2 回生対象「卒業研究・事例研究のための文献の探し方」 継続（平成 19 年度～）

2 回生対象「卒業研究・事例研究のための文献の探し方」講座を実施した。参考・引用文献の書き方、「CiNii Articles」「グーグルスカラー」の使い方等、主に論文執筆に向けて必要なスキルを中心に講習会を実施した。

5 月 15 日（木）1 時限	生活福祉コース 2 回生「介護総合演習Ⅲ」	6 名
-----------------	-----------------------	-----

③ 授業・教員との連携 継続（平成 19 年度～）

- a 図書館システム Lib Max の“ブックリスト機能”を活用した授業との連携 継続（平成 21 年度～）
図書館システムの“ブックリスト機能”を活用した所蔵資料のブックリストを作成し、併せてその関連資料を館内に展示するなど効果的な学習支援に努めた。

「図書館・先輩からのお勧め絵本 No.1～No.10」（絵本はディスプレイコーナーに展示）

- b きらっと図書館講座の開催 継続（平成 17 年度～）

図書館では、大学祭開催時に下記のイベントを行った。

10 月 25 日（土） 13：00～16：00	「えほんのひろば」 卒業生による絵本の読み聞かせ 「としょかん de カフェ」「ふるほん市」	約 10 組の家族連れや卒業生、 一般の方など 180 名の参加
-----------------------------	--	-------------------------------------

10 月 26 日（日）10：00～15：00 のホームカミングデーにも図書館を開館した（延べ約 400 名）。

- c 授業制作物（過年度）の館内展示 継続（平成 22 年度～）

地域こども学科 「自己紹介カード」「布製手づくりカバン」及び「フェルトを使った名札」「季節ごとの壁面飾り」等

食物栄養コース 「給食管理実習のレシピ」「卓上カードなどを記録したファイル」等

(イ) 学修成果の獲得のための学生支援

- ① 他部署・学科と連携した就職支援、学生支援の検討

- a きらっと図書館講座の開催 継続（平成 17 年度～）〔再掲 4.－(1)－(ア)－③-b〕

- b 「としょかん de カフェ：Xmas バージョン」の開催 継続（平成 28 年度～）

12 月 17 日（水）～19 日（金） 9：00～16：30	「としょかん de カフェ；Xmas バージョン」	約 40 名の参加
------------------------------------	---------------------------	-----------

(ウ) 閉学に向けての蔵書整理 継続（令和 6 年度～）

- ① 棚卸作業（在庫確認） 継続（令和 3 年度～）

- a 「研究室及び非常勤講師教科書等資料」及び「各部署保管資料」について、7 月に「研究室（各部署）貸出資料の点検及び資料返却のお願い」文書を配付し、9 月 12 日（金）を締切として、資料の返却を依頼した。

後期授業等で利用する資料や業務に必要な資料等については、令和 8 年 2 月までの貸出延長をし、2 月に改めて資料の返却を求めた。

- b 部屋所管（理科室・にじの部屋・介護実習室・音楽室・子育て支援センター）資料については、7 月に点検を実施し、9 月 1 日（月）～9 月 3 日（水）蔵書点検期間に資料の蔵書点検を実施した。授業等で利用する資料については、令和 8 年 2 月までの貸出延長をし、2 月に改めて資料の返却を求めた。

- ② 閉学に向けて、活用が見込まれない資料の選定及び除籍処理 継続（令和 6 年度～）

- a 「奈良佐保短期大学図書館資料除籍取扱内規」第 3 条第二号及び第三号の基準に従って、図書・学術委員会で選定された「除籍対象資料」545 冊を除籍処理した。

- b 国立国会図書館への奈良佐保短期大学発行資料等の送付 継続（令和 6 年度～）

- ・ 本学発行物の国立国会図書館への納本

奈良佐保短期大学発刊「ならさほ物語：95 年の歴史」（令和 7 年 10 月発行）の新刊納本に併せて、11 月～12 月に、「『地域・企業と共創する就業力の段階的育成』報告書：文部科学省平成 22・23 年度大学生の就業力育成支援事業」（2012 年 3 月発行）など、国立国会図書館に未納本であった本学発刊資料 21 点を納本した。

- ・ 本学除籍資料のうち、国立国会図書館に未所蔵である資料を寄贈

本学除籍済み資料等のうち、国立国会図書館が未所蔵であると思われる資料については、国立国会図書館に問い合わせ後、寄贈処理をした。6 月～12 月に 232 点を寄贈した。

(エ) 地域公開 継続（平成 25 年度～）

- ① 令和 7 年度の一般利用者の利用は、27 日間で 46 名であった。入館に際しては、身分証明書の提示を求め、閲覧のみの利用とした。
- ② “奈良市子育て広場「ゆめの丘 SAHO」” へのサービス提供 継続（平成 20 年度～）
“奈良市子育て広場「ゆめの丘 SAHO」” に対し、毎月絵本を中心とした資料（月 30 冊）の団体貸出を行った。

(オ) 閉学に向けての事務手続き及び館内備品の整理 継続（令和 6 年度～）

- ① 閉学に向けて必要な事務手続き
国立国会図書館、国立情報学研究所、奈良県立図書館協議会等の脱退手続きを行った。

(カ) 歴史的文書の保存 継続（平成 28 年度～）

- ① 本学発行物の国立国会図書館への納本を行うことで、本学発行資料の保存に努めた。
- ② 本学発行資料（卒業アルバム、馬酔木通信、公開講座資料、オープンキャンパスチラシ）等の保存
図書館内（卒業記念アルバム）及び 2 号館 3 階書庫保管分本学発行資料（馬酔木通信、公開講座資料、オープンキャンパスチラシ）等を法人事務室に移管した。

(2) 自己点検評価室の運営

(ア) 定期的な自己点検評価

自己点検評価室は、定期的に自己点検・評価活動を行った。
簡便かつ網羅的に自己点検ができるように一覧表を作成し、運用した。
7 月にはすべての点検を終了した。

(イ) FD 推進委員会

- ① ティーチングポートフォリオ
専任教員を対象に、ティーチングポートフォリオの作成を 4 月に依頼し、専任教員 22 名の提出があった。前期、後期に随時見直すように依頼した。
- ② 公開授業
公開授業は昨年の課題をふまえて、前期 令和 7 年 7 月 1 日(火) から 7 月 11 日(金) 後期 令和 7 年 12 月 8 日(月)から 12 月 19 日(金)の期間中、専任教員が担当するすべての授業を公開し、全教職員が空いている時間に自由に授業を参観できるようにした。授業改善と公開授業の実施とが有機的に結びつくように、事前にティーチングポートフォリオを確認してから参観するように依頼した。
- ③ 学修成果に関する調査
今年度は前期:令和 7 年 7 月 7 日(月)から 7 月 18 日(金)、後期:令和 7 年 11 月 4 日(火) から 11 月 21 日(金)に行った。
今年度の検討会・報告会は、テーマを「教育理念と授業実践について」と設定し、報告会をオンライン開催にしたことで全員の参加があった（課題・改善策）

(ウ) SD 委員会

令和 7 年度末をもって、本学は閉学予定であるため、「大学職員の福利厚生を学ぼう」をテーマに退職に向けての手续等を中心に SD 研修会を行った。また、参加できなかった教職員は録画視聴も含めて全員参加した。

(3) 情報メディアセンターの運営

(ア) ノート PC を活用した学生と教員とのコミュニケーションの運用強化

- ・ 令和 6 年度から、学生の携帯 PC に WindowsOS のノート PC を追加で許可し運用を継続
- ・ 教員側も Google 関連ツールの利用にも習熟しており、学生とのスムーズなコミュニケーションが取れた。

(イ) IT インフラの環境整備

- ・ 学生情報システム (saho navi) 以外のシステムはクラウド型を利用しているため、トラブルなく運用が

進められた。

- ・ 令和 7 年 3 月に閉学になるため、本来であれば PC のリプレースが必要な時期ではあったが、再リースで 対応し、投資を抑えた運用を図った。

(ウ) IT インフラのエビデンスの充実化

- ・ 学内のインフラ環境のエビデンス化を行った。

(エ) 学籍簿の電子化

- ・ 電子データ、紙データとして散財していた学籍簿を統一のフォーマットに集約した。

(4) IR 推進室

(ア) 学外研修への参加

IR 推進室員のデータリテラシー向上のために研修に参加し、内容を共有した。

- ・ 令和 7 年 8 月 30 日 (土) IR フォーラム「変革する大学！」に参加

(イ) データ活用

学修成果に関する調査結果を、各教員の授業及びティーチングポートフォリオへの資料に使われた。

5. 社会や地域への貢献に関する事業

(1) 地域・国際センターの運営

(ア) 職業実践知の接点から見た地域連携

① 公開講座 夢の丘 SAHO セミナー 知の扉 継続 (平成 15 年度～)

	タイトル・日時	募集定員	講師名	参加者数
1	夏の思い出づくり 親子クッキング 8 月 30 日 (土) 13:30～15:00	6 組	島村 知歩	23 名
2	正倉院文書を読む 11 月 6 日 (木) 13:30～15:00	30 名	宮川 久美	12 名
3	「健康食品、コマーシャルにまどわされないで」 12 月 3 日 (水) 10:00～11:30	30 名	矢和多多姫子	11 名
4	「手作りに挑戦！」佐保のお味噌とキャンディ～ 1 月 20 (火) 13:00～15:00	16 名	池内 ますみ	18 名
5	新・福祉宣言 ―今。新しい福祉へ― 2 月 15 日 (日) 13:30～15:00		武田 千幸	15 名

② 開放授業 継続 (平成 20 年度～)

分 類	後 期	
	聴講科目	履修者数
ビジネス分野	イノベーティブ・シンキング	1 名
ビジネス分野	リスクマネジメント	1 名
ビジネス分野	アート・マネジメント	1 名

③ 履修証明プログラム・教育訓練給付制度講座は令和 7 年度は実施しなかった。

(イ) 自治体等との接点から見た地域連携

① シニアワークプログラム 継続 (平成 20 年度～)

従前より奈良県シルバー人材センター協議会の研修会と連動して実施してきた。

令和7年度は、「調理スタッフ講習会」と「剪定スタッフ講習会」の2講習会の委託を受け、実施した。

③ 出張講義 継続（平成24年度～）

奈良市立の公民館、道の駅から依頼をうけ本学の教員が講習会を行った。

タイトル	授業形態	受講対象者	担当者	会場
そうだ！直売所に行ってみよう！	講義	一般	飯田 晃朝	道の駅（クロスウェイ）
プロのパティシエに学ぶお菓子作り ～基礎編～	実習	高校生 一般	箕山なおみ	奈良市立平城東公民館

(ウ) 地域住民の接点から見た地域連携

① 花いっぱい運動 継続（平成30年度～）

平成30年度より開始した花いっぱい運動は、例年地域住民から好評を得ており、「花のあるまちづくり」を推進するため、令和7年度は7月1日（火）・4日（金）に学内農園で食物栄養コースの学生が草花の種まきから栽培して、草花苗（マリーゴールド）を地域に配布した。

② 大和鉄道まつり 2025 に出展 [再掲]

令和7年8月9日（土）・10日（日）生活未来科食物栄養コース学生、地域こども学科学生及び教職員が参加。

6. 広報に関する事業（閉学に向けて）

(1) 積極的かつ「前向き」な情報発信と広報活動を行う。

(ア) 学生生活の撮影

広報活動の一環として、各学科・コースの授業やイベント等に参加した。撮影した写真や動画は教員へ共有を行い、学科の取組や教員の研究資料として活用できるようにした。その結果、学科教員からのイベント等に活用した。

(イ) 撮影した写真を学内に掲示し、閉学を迎える短大において学生生活の思い出づくりや学内の雰囲気づくりに貢献できるよう努めた。

(ウ) 大和鉄道まつり 2025 に出展（令和7年8月9日（土）・10日（日））[再掲]

学生ボランティアの人数が見込めないということもあり、規模を縮小した形での出展となったが、生活未来科では saho バッグに野菜スタンプを押してオリジナルバッグの作成や学内農園で収穫した野菜、焼き菓子の展示・販売を展開した。昨年もクラフトコーナーを体験された家族連れの参加があり、「子どもが佐保の学生のファンになったから今年も来た」という嬉しい言葉をいただいた。

(エ) SNS を活用した情報発信

情報発信については Instagram を活用し、撮影日中の投稿を目指して情報発信を行い、更新期間を空けてしまわないように心掛けた。実施報告だけでなく、事前告知等や当日の様子を投稿やリール動画を駆使した。

(オ) 馬酔木通信 45 号（最終号）の発行

1年間の振り返りとして発行している「馬酔木通信」について、最終号である45号を発行した。例年は各部署や委員会に依頼をしていたが、最終号ということもあり、全教職員や本学に長年講師として来ていただいた先生方に「今までの奈良佐保短期大学の思い出」というタイトルで作成した。

(2) 閉学に向けた Web サイトの在り方について検討する。

情報メディアセンターと連携して、閉学後の Web サイトの運用を考える。

- ・最低限の内容で長期運用ができるページ数の選定を行う。
- ・「法人」「附属幼稚園」「同窓会について」「証明書発行」を基盤として、WEB サイトの簡潔化を行う。

(ア) 閉学用 Web サイト「学校法人佐保会学園サイト」の開設

- ① 情報メディアセンターより、閉学用 Web サイト「学校法人佐保会学園サイト」を開設した。現在は非

公開にしており、広報委員会に共有をしている。

- ② 掲載内容は「概要」「学科紹介」「幼稚園の紹介」「各種証明書発行依頼」「同窓会あせび会の概要」「同窓会あせび会への問い合わせ」としており、現行 Web サイトの内容を流用。
- ③ 構築内容は現行 Web サイトよりも簡単なものになっており、Web サイト構築の知識がなくても比較的簡単に構築ができるよう設定している。なお、管理者権限は「情報メディアセンター」「同窓会あせび会会長」「広報担当職員」に付与している。

(イ) 令和 8 年 8 月末まで現行 Web サイトと閉学用 Web サイトを併用

現行 Web サイトの保守サポート期間の満了にあたり、現行 Web サイトを閉学まで運用する必要があるため、更新期間を令和 7 年 9 月～令和 8 年 8 月末とし、サポート期間の更新を行った。

2.附属生駒幼稚園

保育に関する事業

本年度は「遊びの中で学ぶ」という課題に取り組んだ。「もっと遊びたい」「明日も遊びたい」「友だちと一緒に遊びたい」「幼稚園で遊んだことをお家に帰って話したい」そんな幼児の気持ちが育つよう『楽しく、元気に、そしてじっくり集中して遊ぶ』ことが大切だと考え、遊びの中で幼児自身が学び、成長していく姿を見つめてきた。一人ひとりの発達・成長課題を把握し、集団の力を基に日々の活動を充実させるには教師自らが資質を向上しなければならなかった。クラス担任全員が園内で公開保育を行い、その度に指導の講師を迎え「遊びから学ぶ」ことやその学びが次へとつながって成長していくという幼児理解を深めるよう努力してきた。

今年度の取り組みにおいて

- ① 子どもが自主的に主体的に遊ぶ
 - ② 学びへとつながる環境作り
 - ③ 季節を感じられる遊び
 - ④ 遊びと行事の関係性
 - ⑤ 人と人との関わりを大切にする
- など、大切なことが見えてきた

1) のびのびと遊び、自分で考え、力いっぱい表現し、積極的に活動する幼児の姿をめざして

- ・興味関心を持った遊びが持続・発展できるように、教師は幼児の気持ちの動きを丁寧に感じ取りタイミングよく援助できるようになった。
- ・幼児のイメージを広げていく力や、思いや考えを遊びに生かしていく力を見守り、教師も一緒に遊び込んでいく。
- ・少し難しいと感じることや取りかかるきっかけが必要なことにも幼児自身の「リアルな体験」を心がけた。教師が先にしてしまわず、葛藤や失敗も乗り越えられる経験として学びにつながると考える。
- ・他クラス・学年との連携及び見通しをもった指導計画をたてることにより、保育内容の充実に繋がった。担任が目標意識やねらいを確実に指導案の作成をすることで、幼児の姿をよくみるようになり、心理理解が深まったと思われる。
- ・基本的生活習慣面では、年齢や発達にあわせて、自分でできることは時間がかかっても自立を促し、繰り返すことで習慣付けてきた。「しなくてはならない」「させられる」ではなく、「自分から進んで行う」意欲的な姿がみられるようになった。また、生活面が安定することで遊びへの意欲も高まっていった。
- ・特別な支援を要する子どもに応じた「個別の支援計画」を作成し学期ごとに評価し、保護者や専門機関と積極的な連携を図り指導に努めた。各自治体からの依頼にも迅速に応じ、本人の安定はもちろん、保護者支援も重ねて行った。

2) 遊びの充実・学びに繋がる環境作り

- ・固定遊具、移動遊具の安全点検と十分に楽しんで遊べる戸外の環境の見直しを定期的に行った。特に戸外園庭遊びの遊具の位置や遊びのコーナー作りは職員間で話し合いをもち、園庭記録図を用いて可視化できるようにした。
- ・大ホールの利用については階段差の安全な利用を意識して各学年が交流できる遊びの展開を考えた。
- ・明るく清潔な保育室内を保ち、遊びへのイメージが広がりやすい種類・量の玩具や素材を準備し、幼児自らが使い始められるように必要な物の収納を再考した。また、空き部屋利用の「フリールーム」を日々の遊びに活用して広く使えるように場の提供をした。保育室及びホールも含めて幼児の動線については、混乱を避けた上で友達同士が関わり、交わる動きの環境を幼児と一緒に考えていった。
- ・身近な環境の中で小動物に触れあい、飼育体験などを通して、命の大切さや生き物へのいたわりの気持ちが育つよう、感性・感受性豊かな幼児の育成に努めてきた。(かめ ウサギ モルモット めだか ザリガニ かたつむり等)

3) 生活の中で四季を感じたり、遊びに自然事象や自然物を取り入れたりする。

- ・ 5月節句（五月人形飾り、こどもの日の集い）、9月月見飾り、10月ハロウィン、12月クリスマス（クリスマス会）、1月正月（鏡餅等）2月節分（豆まき）3月の節句（雛飾り、ひなまつりの集い）などを年間の節目の行事として、季節の歌を歌ったり、壁面飾りを作ったりした。他にも季節の変化を五感で感じられるような遊びをたくさん提案したことで、その時期ならではの遊びがみられた。
- ・ 日本の風土や伝統、四季の移り変わりについては教師自身が豊かな感性で感じ取り、幼児に伝えていけるように心がけた。また、図鑑や絵本も活用する上で覚える学びよりも感じる心の学びを大切にしている。
- ・ 園外散歩で気候の変化を感じられる機会を増やしたり、花や木の実を使った遊びを提案したりすることで、既製の玩具では得られない経験につながった。
- ・ ネイチャー（自然物）制作の講師を招き、多種多用の木・花・実・葉などの自然物にふれる機会をもち、制作を楽しんだ。

4) 園生活の中での行事の内容精査と位置付けと日程時間配分について

○運動会や音楽会、作品展などの年1回の大きい行事にむけての練習に費やす時間と日々の遊びの時間配分に悩みながらも両立してきた。又、毎月1回の行事や英語・体育・サッカーなどの講師をむかえての行事や単発に入る行事などで、「今日の遊びの続きを明日もする」ことができにくい日もあったが、反対に行事で経験したことを遊びに生かし、つなげることもできていた。

- ・ 誕生会・・・ひとりひとりの誕生を大切に感じられる会として大切にしている。全園児や誕生児の保護者が参加し、毎月学年で歌の披露や職員及び外部の方のパフォーマンスの出し物でお祝いをした。幼児の成長を感じ誕生を祝って楽しむことができたとともに、各部屋では、誕生児の保護者と一緒におやつを食べたり楽しい活動をしたりして過ごせた。
- ・ 遠足・・・下見を十分に行い各学年の発達に応じて実施した。特に今年度はバスで現地まで出かけた時も、「歩く」活動を意識的に取り入れた。
- ・ クリスマス会・・・地域の方がサンタさんになってくださり全園児で夢のある楽しいクリスマス会となった。保護者合唱サークルの歌の披露をしていただき、内容も充実した夢溢れる会を開催できた。
- ・ 運動会・・・広々とした生駒市北大和グラウンドで行った。前日準備にはボランティアの保護者が自主的に手伝ってくださった。広々としたグラウンドに、当日は多くの観客に会場をいただき、保護者や未就園児が参加できる内容で盛り上がり、保護者や地域の方にも好評であった。
- ・ 作品展・・・子ども達は発達に応じた様々な素材を使って作品作りを楽しんだ。各学年テーマを考え展示方法に工夫をし、作品への思いや制作中の子どもの姿を同時に掲示したことで取り組みの様子や成長を感じてもらえた。また、午後からは人数制限なく自由観覧時間を設けたので、家族全員で楽しめたり、祖父母や親せき、友人まで見に来ることができたりしたので大変喜ばれた。
- ・ お楽しみホテル保育(奈良パークホテル)7月・・・ホテルの大広間を貸し切り、記念フォト製作をしたり、夏の縁を取り入れたりして、年長児だからこそその自由度の高い保育ができた。ホテル食やピエロのパフォーマーのイベントも手配し、「日常ではない特別な日」として、子どもにも保護者にも好評で満足な日になった。
- ・ 音楽会・・・満3歳児～5歳児までの発達に合わせた歌や楽器の発表をした。観客の前での音楽表現に自信を持ち、取り組んでいた。
- ・ 生活発表会・・・従来の発表会から「舞台～保育室」「劇～表現遊び」等、学年の発達段階に合わせた内容に変更した。各担任が子どもの個性に応じた表現を取り入れ、音楽性を発揮することができ、質の高さを感じられた。
- ・ 避難訓練・・・学期に1回行い、避難場所や避難の仕方を知らせる。避難場所、方法に関しては所轄の消防署の方に園内で確認をとり、いざという時に備え職員で確認し合えた。また、地域で行われた防災イベントにも幼年消防団としてゲスト参加し、防災意識を高めた。

- ・ひまわり会（夏休み）・・・前年度卒園した新一年生を迎えて園庭でスイカ割りをした。久しぶりの幼稚園や先生、友だちにワクワクがいっぱいで楽しく過ごすことができた。

5) 人とかかわりの中で教師も幼児も学ぶ大切さ

- ・担任、クラスの友達、違う学年の友達、担任ではない職員など、地域のお客様、近隣の保育園や幼稚園の友達など、集団におけるかかわりの多様性から人とかかわりを学べるように過ごしてきた。
また、毎日の友だち関係の中では、成功体験と一緒に喜び、楽しみ、挫折して落ち込んだりもしながら、成長していく様がみられた。異年齢交流では上の学年の子が下の学年に思いやりのある態度で接したり、下の学年は上の学年に憧れの意識をもったりもしていた。
- ・教師自身も人間関係を重視し、園生活における状況記録(発達、病気、怪我、出来事、他)については教職員で共通理解を心がけ、何か事象が生じた時は速やかに教師間で情報の確認・判断・実行を行ってきた。
- ・各学年にフリー教員を固定配置し、内外にむけて意識付けすることで、幼児にも保護者にも担任と同様の信頼関係が生まれた。ひとりひとりに寄り添った密な関わりができ、よりよい保育に繋がった。
- ・家庭の理解・協力をお願いするにあたり、コミュなび、電話、送迎時などを利用し保護者との連携に努めてきた。様々な保護者の思いを受け止め、関わる中で「子どもがまん中」という観点から速やかな対応を心がけた。責任発生事案には必ず園長が対応し、問題解決に繋がった。
- ・園内に積極的に地域の方をお招きして、関わる経験を増やした。最初は戸惑っていた幼児であったが、まずは挨拶から始まり、「かわいいね!」「元気がいいね!」と声をかけてもらうことで親しみを感じるようになってきた。地域のボランティア会のメンバーや民生委員さんなどとの交流遊びを年間通じて行えたことで「私たちも元気をもらっています」と言ってもらえることも多く、互惠関係を深めることができた。また、地域の納涼祭に年長児鳴子踊りの披露、いきいきホールオータムフェスタ幼児の作品展示に参加し、交流を深めた。
- ・年3回鹿ノ台校区推進委員会参加・・・保育園・小学校・中学校と協力
- ・鹿ノ台中学生の体験授業をひきうけ、職業体験に来た学生との交流をもった。日頃一番関わりを持ちにくい年齢であり、エネルギー溢れた年の離れたお兄ちゃんお姉ちゃんとの関わりは幼児にとって貴重な経験となった。
- ・鹿ノ台小学校とは授業参観や幼児の連絡会を行った。小学校の給食を食べる経験や広い校庭で遊ぶ経験も貴重なひと時となった。
- ・特別支援教育関係では、入学前に子どもの様子について小学校長先生と保護者の話ができたり、入学する子どもについて教員同士が話し合ったりして交流することができた。
- ・生駒市鹿ノ台自治会と協力して資源回収エコ推進活動と一緒に取り組んだ。
- ・農園見学・・・チューリップ鑑賞に年長児が参加した。地域の方々のお世話になり優しさや温かさを感じ子ども達にとって良い体験となった。

6) その他

○各市との連携協力体制強化

- ・生駒市、奈良市各市の子どもサポートセンターと交流し様々な事象を共有しながら保育と指導に繋がった。
(要対協4名)
- ・教育相談、各療育専門機関との連携・・・担任が教育相談や各療育機関への参観をし、専門機関の園訪問を受け入れ、よりよい保育と幼児の成長に繋がった。
- ・生駒市私立公立幼稚園保育園認定こども園合同園長会会議及び研修会に参加

○奈良佐保短期大学、阪奈中央病院看護学校との交流

- ・教育実習・・・実習1回生、2回生 見学実習 阪奈病院学生実習（一年間を通して）
- ・地域こども学科フィールド授業参加・体育指導は、短大体育館で実施。保護者参観実施（年1回最終日）
- ・短期大学食堂での調理実習で年中組全員が昼食をいただく。

- ・短大の畑でさつま芋の苗植えを学生と一緒に収穫し、後日幼稚園庭で焼き芋にして地域の方と交流する。

○設備等の修理・設置・充実

- ・保護者協力のもとに絵本室整備
- ・園庭樹木剪定と枯れ大木伐採
- ・幼稚園名変更のための銘板・看板・バス表示取り付け
- ・バスの運行台数とルート変更準備

○体験型課外レッスンとして

- ・降園時間後に書き方教室・体操教室・英語教室を開き、希望者を募りプロの先生をお招きして課外レッスンをし、幼児自身からも保護者からも好評であった。

○特別活動（講師起用）の充実

- ・講師による特別活動は専門性にふれる意味でも体験として貴重な楽しい内容に富んでいる。
- ・年長・・・茶道教室(年3回) 畳の部屋での座り方やお茶の作法を学んだ。最後には生駒市竹林園でのお茶会に参加し、お茶室でのお点前も経験し、背筋が伸びて気持ちの凛としたひと時を過ごした。
- ・体育指導(学期に1回)・佐保短大体育指導(年3回)・サッカー(年間8回)
- ・年中・・・体育指導(月1回) サッカー(月1回) バランスボール(学期に1回)
- ・年少・・・体育指導(月1回) バランスボール(月1回)
- ・各学年共通・・・英語教室(週3回) 子ども達が自由感のある中で、自然に英語(英語を話す人)と接し、自分と異なる言葉話す人に関心を示し、自ら楽しみやってみようとする姿を大切に行っている。講師先生と園が話し合い「英語を教える」ではなく、子どもの実態に沿って無理なく行ってきた。自分から親しみをもち挨拶をしたり一緒に遊んだりして楽しく過ごす姿が見られた。今後、発達段階を考え内容を更に工夫しながら無理なく進めていきたいと考える。

運営に関する事業

- ・送迎時の安全管理の徹底・・・無線機を使用することで、スムーズに連絡が取れ送迎の様子が把握できた。
- ・バス位置確認や乗降時の様子確認のために、連絡方法として無線機で連絡をスムーズに行う。
- ・登降園時に保護者駐車場や園前の交差点に駐車場警備員が立ち安全面に配慮している。
- ・バス送迎の安全点検・・・バスに安全装置を設置し、添乗教諭による日々の安全点検(チェックシート)の回数を複数回増やした。登降園に関しての職員間の連携に努める。
- ・遊具点検の強化・・・安全点検表を作成し学期に1回、職員全員で点検を行う。
- ・危険箇所に防犯カメラを設置し、不審者侵入や園児無断外出を防ぎ、常に安全確認に努める。
- ・来園時のインターフォンの際の映像身元確認を、保護者や業者に徹底した。
- ・預かり保育室への通路に鍵付きの通用門と映像インターフォンを設置したことで、保育時間外の不審者侵入対策を強化した。また、通常勤務時間後は預かり担当以外にも緊急時対応のため、管理職又は職員が必ず在席するようにして安全配慮を行った。
- ・生駒市内の安全指導員に来園していただき、地域内の不審者情報を得るようにした。
- ・セコム警備会社担当と話し合い、幼稚園の建物や状態に応じた安全対策に必要な契約の見直しを行った。

2) 園内研修の充実

- ・教員の研修時間の確保
毎朝の打ち合わせと保育の確認や子どもの姿を共有し、日々の細かい情報交換を大切に進めてきた。
- ・保育内容の充実と教員の資質向上をめざし全学年で公開保育研修会を計画的に行い、講師にきていただいたり教員間で感想や意見を出し合ったりした。
- ・保育力向上や幼児心理把握、年齢に応じた教育計画作成等多岐にわたり学びに繋がった。今年度は満3歳児の年間カリキュラム作成をした。
- ・教員研修の充実・保育内容の精選・・・幼児教育の普遍性を大切にしていけるのはもちろん、まず教師自身

が楽しいと感じる保育、準備時間やコスト面、幼児への明確な狙い設定など広い視野をもち、「これまでと同じ保育」だけではない柔軟な思考を学ぶようにした。

- ・園内で実習研修会、園長研修会を学期ごとに実施し、職員間の共通理解を深める。(クラス公開実践、不適切保育について、食育実習研修、チームワーク研修、防犯防災についてなど)

その他の事業

1) 預かり保育の実施と充実

家庭的な雰囲気を大切にゆったりとした空間の中で、預かり担当教諭が話し合い、異年齢の子ども達とふれあい楽しめるように環境を工夫した。保護者の就労や家庭の事情等の理由で保護者の支援に繋げるようにしている。

2) <さくらんぼ>次年度入園予定児<ひよこ>満3歳児入園予定児(未就園児)登園日の充実

保護者と一緒に登園し、先生や在園児とふれあい遊びをしたり絵本やお話にふれたり園庭で十分体をうごかしたりして園生活を楽しむ。年間計画をたて、入園前においても育児相談等とコミュニケーションを心がけ、入園率につながるよう工夫して取り組んできた。

3) 家庭(保護者)との連携

- ・担任と連絡を密にする・・・コミュなび、電話、手紙、家庭訪問等。
- ・園だよりや園長だより、さほママブログで子ども達の成長や子育てに今、大切にしたいこと等啓発していき、保護者と共有できた。
- ・学期ごとの個人懇談会を行い保護者と子育てについて話し合い共有し日々の保育に繋がった。
- ・保護者親睦会(年2回)・・・学年ごとに保護者が集まり育友会役員の司会進行で行われる。子育ての悩みや家庭での様子を出し合い保護者同志の親睦を図ることができた。
- ・給食試食会・・・給食業者の協力で食育についての講話を聞き試食していただく。(よりよい食育給食指導となるよう繋げていく)

4) 地域との連携事業

- ・地域の行事・・・地域の納涼祭に年長児鳴子踊りの披露、いきいきホールオータムフェスタ幼児の作品の展示、年2回の壁面掲示の参加
- ・年3回推進委員会参加・・・保育園・小学校・中学校と協力
- ・鹿ノ台小学校との交流・・・授業参観や幼児の連絡会を行った。1月には広い運動場で思い切り風揚げを行った。
特別支援教育関係では、入学前に子どもの様子について校長先生と保護者が話ができたり入学する子どもについて教員同士が話し合ったりして交流することができた。
- ・資源回収の協力・・・生駒市鹿ノ台自治会と協力してエコ活動の一環として一緒に取り組んだ。

5) 施設・設備等の修理・設置・充実

- ・ホールの暖房修理 室外機の修理 取り換え見積り
- ・ドライブスルー再開の工事(登降園門付近、バス車庫付近の改修工事)
- ・バス収納場所門のインターフォン設置
- ・園庭樹木選定と伐採
- ・各駐車場管理修繕

6) 各補助金・助成金の積極的申請

- ・ICT化支援事業補助金
- ・奈良県私立幼稚園の教育の質の向上のための研修支援事業補助金
- ・一時預かり事業保育補助金(生駒市・奈良市・精華町)
- ・生駒市の加算適用申請書に基づき各市町村(生駒市、奈良市、木津川市、精華町)から毎月施設型給付費をいただく。

7) 募集について

- ・入園説明会のスライドショーや園見学の進め方と内容の工夫に加え、ホームページの見直しと広告の充実。
- ・地域便り「しかちゃん新聞」を発刊し、園アピールと園児募集に繋げる。
- ・園児獲得のためのアイデアを出し合い、啓発活動に尽力した。ブログ配信や近くの商業施設での映像放映、募集要項のビラ配り、保護者の方に口コミのお願いなど、少子化や共働きの為の入園減少について先を見た取り組みが必要だと思われる

3. 認定こども園附属河内長野幼稚園

新型コロナウイルス感染症も 5 類へ変更となり、インフルエンザ、ノロウイルス等の感染が混在した一年間であったが、様々な情報を把握しながら、適切に判断し、子どもたちの育ちに少しでも近いものをお願い、やりたいこと、何が一番大切かを見極めながら、コロナ禍で途切れた行事を少しずつ必要に応じて形を変えながら復活させ、園活動を進めることができた。

保育に関する事業

- (1) 「あそび」はこころとからだを育てる。子どもは教えられて育つのではなく自ら学び育つものであるという考えを基に、目先の知識の詰め込みや教え込みではなく子どもたちの自然でたくましい育ちを助けるよう、たっぷり とことん遊びこめる環境を整え援助をした。
- (2) 絵画製作（月 1 回）や体育教室（月 2 回）、英語遊び（月 2 回年中・長のみ）の活動も専門の講師の下、ますます充実し講演会や参観などを通して保護者の深い理解を得た。

運営に関する事業

- (1) 安全対策について
 - ・引き続き万が一、不審者の外部からの侵入などの不測の事態に備えて教職員の訓練を行い、行事の際には保護者の協力を得て園内のパトロールを実施していた。
 - ・遊具の点検は年に 2 回業者に依頼。園の教員では学期毎に点検を行った。
- (2) 教員のスキルアップ
 - (ア) 外部より専門の講師を招いて絵画製作の研修を行い、クラス毎に研究発表をし、意見の交換や評価をして保育の質の向上を図った。
 - (イ) 外部より専門の先生を招いて体育・運動あそび、ゲームの研修をした。
 - (ウ) 河内長野市私立幼稚園連絡協議会の研修を受講
 - (エ) 他園見学の実施
 - 各職員が興味のある河内長野市内の幼稚園保育園を見学した。
 - また、他園からの見学を受け入れた。
 - (オ) 処遇改善研修の受講
 - 各職員がそれぞれのキャリアに応じて研修を受講し、修了証を取得した。
- (3) 4 月 6 日（日）難波御堂筋ホールに於いて大阪私立幼稚園連盟南大阪支部のオール南大阪就職フェア 2025 に参加
6 月 1 日（日）河内長野市主催合同就職フェアに参加
- (4) 定員の改訂
 - 1 号こどもの減少、2 号こどもの増加を鑑み、また公定価格の最大値を試行し 1 号こども（25 名）2 号こども（20 名）に改定した結果、収益的が増加した。
 - 令和 8 年度より、1 号こども（20 名）2 号こども（20 名）に改定する予定。

その他の事業

- (1) 預かり保育
 - ・月～金曜日の早朝預かり（7：30～8：00）の実施。
 - ・土曜日預かりの早朝預かり（8：00～9：00）の実施。
- (2) 2 号こどもの保育の充実
 - ・1 号こども降園後の 2 号こどもの心的援助と環境の整備。
- (3) 子育て支援活動推進事業の実施
 - ・昨年度に続き、満 2 歳～就園までの子どもとお母さんを対象に未就園「たんぽぽ」の実施を週 1 回行った。遊びの場としてだけでなく、子どもやお母さんの友達作り、子育ての悩みや相談などお母さ

んの話聴く場としても広く開放した。

- (4) ・月に1回、年齢に関係なく地域の未就園児を対象に約1時間、園庭を開放した。同じ時間に絵本コーナーを開放し、卒園児保護者のボランティアによる絵本の読み聞かせや貸し出しの「さほっこ文庫」を開設した。「さほっこ文庫」は天候に左右されることなく実施できるので、利用しやすいと好評を得ている。
 - ・2歳の一時的預かり保育の実施。(定員6名。1歳10ヶ月頃からも状況に応じて可能とした。)
- (5) 毎月行っている参観は一年を通じて開催することができた。
- (6) P T A (佐保の会) 活動は、計画通りに実施できた。
- (7) 年長児の鍵盤ハーモニカの学習が定着しつつある。
- (8) 春(橋本市杉村やすらぎ広場)、秋(南紀白浜アドベンチャーワールド)の園外保育を実施。ともに初めての場所であったが、園児の興味を引く内容や十分な活動ができる施設であり、保護者の反応も好意的であった。
- (9) 年長児の宿泊保育を実施。
- (10) 5月23日いちご狩り(いずみふれあい農園)、10月27日さつまいもほり(くろまるファーム)、11月20日みかんやま(奥畑みかん園)で収穫体験
- (11) さほっこなつまつりは卒園生に向けての呼びかけをし、飲食やワークショップを実施。
- (12) プール遊びを実施。
- (13) 夏休みの自由登園とし、「わんぱく」と名付けて無料で縦割りの活動は、お泊り保育後から8月第一週まで行った。
- (14) 市内9園が所属する河内長野私立幼稚園連絡協議会開催の幼稚園まつり。ラブリーホールにて人形劇を観賞。
- (15) 10月11日(土)運動会を実施した。
- (16) 10月12日(日)加賀田フェスティバルに年長組パラバルーンで参加。
- (17) 11月15日(土)作品展を園内で時間をずらして各クラスごとに開催。
- (18) 12月15日(月)ふれあい移動動物園
- (19) 12月19日(金)～21日(日)新・童美展(兵庫県立美術館)
- (20) 12月21日(日)窪順子先生講演会に教職員が参加(兵庫県立美術館)
- (21) 12月11日(木)クリスマス会(参観)
- (22) 2月2日(月)第57回全日本幼児画アンデパンダン展(1年間のWEB開催)に参加
- (23) 2月7日(土)～8日(日)市内の小中学校と幼稚園の絵画活動の発表の場として開催の「キッズアート展」に参加
- (24) 2月14日(土)生活発表会開催 保護者の観覧あり
- (25) 3月6日(金)お別れ会
- (26) 3月13日(金)第52回修了式(卒園式)3,4歳児参加、来賓・保護者の参列あり

幼稚園評価の実施

保護者アンケートを行ない、その結果を施設関係者評価として学園の評価委員の先生方をお願いした。
(評価委員に依頼中)

※令和8年度の園児数について

令和7年4月1日に園児数37名でスタートし、令和8年3月1日園児数43名
令和8年4月1日は、36名のスタートとなる

4. 附属倉敷幼稚園

保育に関する事業

(ア) 昨年に引き続き、今年度も年長児は保護者のご厚意で実際の田んぼで田植えを行った。稲の栽培を行い、「米の収穫後の藁でお飾りを作り、どんど焼きで燃やし、その灰をじゃがいもの種いもに擦り付けて除菌後、翌3月にいもを植える」という一連の作業を通して命の繋がりを知らせている。他にも花・野菜の栽培、小動物(うさぎ)の世話を通して、自然との関わりの中で命の尊さについて知らせると共に、毎月行われる誕生会でも「生んでくださって有難う」「育ててくださって有難う」の言葉を、園児から保護者に伝えるように知らせていった。

「先ず第一に自分の命を大切に、そしてひとを大切に、ものを大切に」、ひいては全てに感謝の気持ちを抱くように伝えていった。

(イ) 「心と心のキャッチボール」を合言葉に円滑な望ましい人間関係の育成に努めた。

(ウ) 体育遊び教室(月2回)、モンテッソーリ活動(週1回)、リトミック活動(月2回)、英語遊び活動(月1回)等、非常勤講師の指導の下での遊びを充実させ、自主自立、自立の心を育てていった。特に、モンテッソーリ活動を充実させることで、園児の自主性を確立させ、集中力を養うことに貢献した。

(エ) 年中児を対象に、「歯科から見た食育～お口の機能、育っていますか?～」をテーマに園歯科医により、2学期から月1回ずつ実際の食べ物を口にしながら五味五感、出汁、新米の甘さ、食事時の姿勢の大切さ他、体験活動の指導を受けた。「少なくとも30回は噛むこと」の大切さを知り、昼食時に励行している。

運営に関する事業

教員のスキルアップ

(ア) 昨年は岡山県私立幼稚園連盟と倉敷市私立幼稚園協会主催の、講演・実践・グループ協議等を中心に対面での研修・研究が本格的に進み、zoom等のリモートでの学びも加わり、保育後に教員が順番に参加することができ、レポートを提出して多くの学びができた。

(イ) 全日私幼連から出されている教員の資質向上のための俯瞰図にのっとり、県私幼連・市私幼協・県及び市主催の各種研修会も対面で始まり出し、リモート研修と共に全員順番に参加することで研鑽を積んだ。

(ウ) 8月末に1泊2日の日程で中国地区私立幼稚園教員研修会(令和7年度は広島大会)が昨年に続いて開催され、講演会・研究発表に参加し、中国5県の教員と共に研修を重ねた。

(エ) 岡山県私幼連主催による令和7年度全体教員研修、及び主任研修、中堅研修は夏休みの一定の期間内でキャストリーによる動画配信により研修を受けた

(オ) 6月の県私幼連の総会・研修会では講演聴き、11月の県私幼連開催の公開保育では子ども達の喜々として遊ぶ姿をコロナ禍以降直接に目の当たりにして感動すら覚えた。その後、レポートを提出し、それぞれ実りある学びの機会を得た。

(カ) 特別支援を必要とする園児に対し療育施設の先生の訪問を受け園生活が、そして就学に向けての接続がスムーズになされるように努めた。各学年にかなりの支援を必要とする園児がいるため、本園も教員全員で対応している。特に今年度は倉敷市幼協研修部で、特別支援に対応する年3回の研修をシリーズで行い、資質向上に充てた。

(キ) 毎日の終礼を中心にその日の保育実践や子どもの様子について園内研修を進め、各教員のコミュニケーションを密にした。特に、コロナ禍後の行事変更や活動の見直し等、教員全体で充分話し合いを行い、予定変更については直ちに保護者に一斉メール送信をしたり、内容によってはアンケートをとり、便宜や連携を図った。

その他の事業

(1) 預かり保育の実施

満3歳児も含め預かり保育(毎日、保育終了後～17:30まで)を継続して行い、長期休業(夏休み・冬休み・春休み)中の預かり保育(8:30～17:30)も行い、保護者のニーズに添った。

(2) 子育て支援活動推進事業の実施

県より支援を受け、遊戯室の環境を整え、未就園児の幼児クラブを月1回継続して行い、「子育て支援活動推進事業」に取り組み多くの未就園児親子に喜ばれ、次年度の新入園児の入園に役立てた。

(3) ボランティア組織

P. T. A 役員以外に、今年度も保護者からボランティアを募り、各種園行事への支援をお願いした。例年のように1学期末にP. T. A 役員のアイデアで「夏祭り」を楽しく開催し、子ども達も大満足であった。

8月末のP. T. A 会員による、園内外の清掃、団地の駐車場・通学路の清掃は職員と共に全員で行い団地の自治会役員さんや住人たちから喜ばれた。

運動会の前日も草刈等で整地し、当日もP. T. A 役員やボランティアの力を借りることでスムーズに運べる事ができた。

(4) 倉敷市私幼協主催くらしきキンダーフェスティバル

5月に開催の予定だった倉敷市私幼協主催くらしきキンダーフェスティバルは、コロナの流行や熱中症を避けるため、昨年から市内17園の5歳児700名の全園児と教職員が倉敷市民会館に集い、本格的な人形劇団による観劇・歌・手遊び等で形を変えて今年度も皆で楽しく半日を過ごした。

(5) 年長児のお泊り保育

8月末に国立吉備少年自然の家にて、過去何十年と続いている年長児のお泊り保育を昨年に続き今年も無くすことなく行った。参加した年長児はとても貴重な体験をし、送迎時には保護者からも大いに喜ばれた。

(6) 実習等の受け入れ

学生数の減少が影響しているのか、今年度もどの養成校からの依頼が無く、残念であった。

(7) 音楽の会

11月に親子音楽会を開き、年長児の保護者を招待し、年中、年長児を対象にプロの音楽家5名の弦楽五重奏の演奏を聴き、感性の育ちの一助とした。

(8) 人形劇鑑賞

12月に地元の短大生(20名)が演じる迫力のある人形劇を全園児で鑑賞することができ、子ども達はファンタジーの世界に浸り、楽しいひとときを送ることができた。

(9) 老人ホーム訪問

今年度も春・秋と年2回、特別養護老人ホームに年長児が訪問し、手遊び・歌等、共に遊ぶことで老人から「命の大切さ・尊さ」を知ると共に、自分は他人の役に立っているという自己有用感、自己肯定感を体験した。貴重な体験をすることで命の大切さ、人への感謝、その他多くの体験をすることができた。

(10) 見学

季節の行事の他、今年も新幹線や消防署・時計屋見学に行くことができ、園外見学に参加することで社会に触れ、その一員としての自覚が生まれるように促す体験をした。取りわけ、地元大原美術館への年4回伺う見学では「世界の宝物」に接し、感性を育てると共に、見学マナーを身に付けることができ、貴重な体験をした。年長児の月を観る会も9月に参加し、天文台の大きな望遠鏡を覗いて月のクレーターを観て親子共に貴重な体験をした。どの見学においても施設の方から「お利口ね、いい子ね」と声を掛けられ、子どもたちは満足感を味わった。

(11) 避難のけいこ

月1回の避難のけいこを通して、火事・地震・不審者から身を守る訓練を積み重ねており、幼児とは思えないぐらい素早く避難できた。7月には、昨年に引き続き倉敷警察署OBの2名の方が不審者への対応の指導に来園してくださり、実際にサスマタを使用し、職員が実体験をし、その後年長児は不審者からの避難の注意事項「いかのおすし」の説明を細かく聞いて、良い体験をすることができた。

(12) お茶会他

2月の年長児対象のお茶会では、佐保会岡山県支部会員を講師に招き開催した。子ども達は大真面目な顔で正座をし、終わった後「抹茶は美味しかった」「干菓子は砂糖の味がした」と口々に楽しそうに話していた。

他に佐保会員岡山県支部の方々には、卒業式の前の準備、秋のバザーへの献金等、ボランティアと

して常にお世話になっている。

(13) PTA 会員有志によるコーラス部

PTA 会員有志によるコーラス部「さほ×さほ smile」(部員約 40 名)の美しい歌声を、PTA 総会、7 月・3 月の誕生会等で聴いた。部員は本園の遊戯室で週 1 回練習を重ねている。

他に 1 月の倉敷市私幼協 P T A 音楽交流会では他を圧倒する程の素晴らしい演奏を披露した。

(14) その他

ホームページを大いに活用しながら広く外に向かって園のことを伝え、園児数拡大に繋げていきたいと全職員で考えている。年度末のお別れ会でも、年長児に歌やプレゼントを渡し、その後、恒例のカレー会食を全員で行い、年長児との別れを惜しんだ。卒園式を済ませた後には P T A 役員を中心に卒業生クラスの保護者により心温まる手作り謝恩会を開いてくださり、感謝の気持ちで一杯になった。

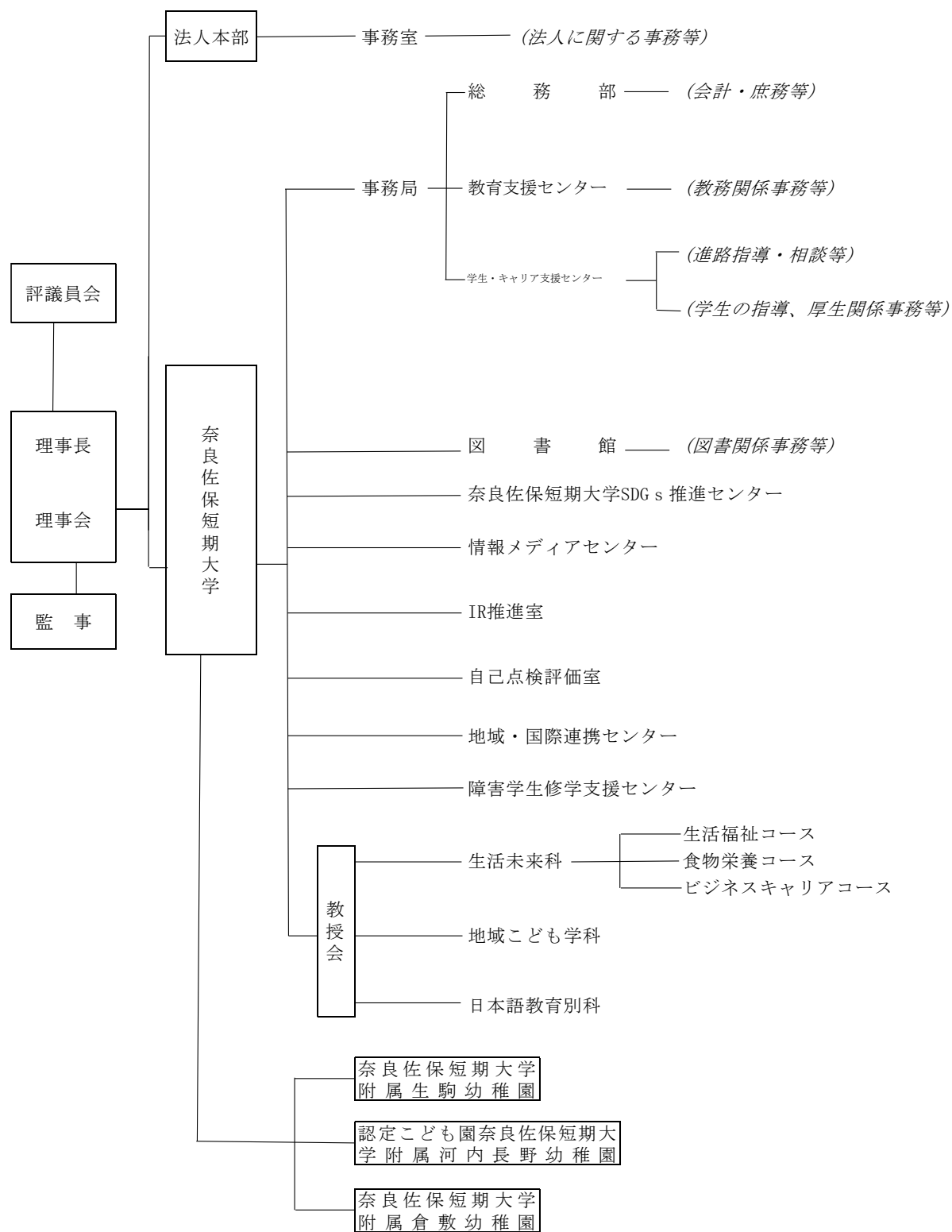
他に卒業までに、一つでも楽しい思い出を作って年長児を卒業させたいという願いの下、P T A 役員もミニバザーを開いてくださり、かなりの収益を上げることができた。

今年度も職員、保護者、皆で力と知恵を出し合って考えてきた 1 年であった。この経験を是非、次年度へと繋げていき、新しい行事・活動を生み出しながら子ども達と保育を進めたいと願っている。

(15) 最後に

令和 6 年 1 2 月に幼稚園創立 50 周年記念日を迎え、令和 7 年 3 月に無事耐震改修工事を終え、新年 4 月始業式に、工事関係者、イトーピア自治会役員、学校法人佐保会学園理事長、奈良佐保短期大学長、学校法人佐保会学園法人本部職員を迎え、新年長・年中児と教職員共に「50 歳おめでとう・工事完成お祝い会」を催し、皆で祝った。そうして出発した令和 7 年度、新園舎の中で快適な園生活を送っている。

6. 運営・組織機構



（※ 斜体文字は主たる業務・分掌をしめす）